

第24回川崎病全国調査成績

特定非営利活動法人
日本川崎病研究センター

川崎病全国調査担当グループ

[連絡先]

〒329-0498 栃木県下野市薬師寺3311-1
自治医科大学公衆衛生学教室気付
川崎病全国疫学調査事務局
連絡担当 屋代真弓・牧野伸子・中村好一

TEL 0285-44-6192

FAX 0285-44-7217

2017年9月

第 2 4 回川崎病全国調査成績

はじめに

1970 年以来 2 年に 1 回の間隔で 23 回にわたって、川崎病全国調査が行なわれてきた¹⁻⁴⁰⁾。今回 2015 年～ 2016 年の 2 年間の患者を対象に実施した第 24 回川崎病全国調査の成績がまとまった。2 年間の調査成績より、報告患者数、初診年月分布、性・年齢分布、地域分布、診断、家族歴、再発例、死亡例、心障害例(初診時の異常、急性期の異常、後遺症)、初診時病日、不全型主要症状の数、免疫グロブリン(IG)治療(不応例の有無、ステロイド併用の有無と内容、初回 IG 投与施設)、初回 IG 投与後の追加治療(追加 IG 投与、ステロイド投与、infliximab 投与、免疫抑制剤投与、血漿交換)、検査所見として、血小板数(初診時・最高値・最低値)およびその最高値・最低値の観察病日などの疫学像並びに臨床像を明らかにしたので、これまでに得られた過去の調査成績と比較しながらその概要を報告する。

I. 方法

第 24 回川崎病全国調査は、小児科を標榜する 100 床以上の病院、および小児科のみを標榜する 100 床未満の小児専門病院を 2015 年 1 月 1 日より 2016 年 12 月 31 日の 2 年間に受診した川崎病初診患者を対象に郵送(一部、インターネットサーベイランス(<http://www.kawasaki-disease.net/kawasakidata/>)参加の施設には電子メールでも依頼)により実施した(添付の調査票様式参照)。

施設の選定は、前回使用した医療機関のリストに、その後調査時点までの変更を更新したものをを用いた。対象候補施設数は 1,896 か所であった。

本調査は、自治医科大学疫学研究倫理審査委員会の承認を得て実施した(2016 年 11 月 2 日、臨大 16-030 号)。

II. 調査結果

1. 回収率

依頼状、調査票等を送付した 1,896 施設のうち、廃院等の連絡があった 15 施設を除く 1,881 施設を調査対象とした。回答は 1,444 施設から得られ、回収率は 76.8 %であった。そのうち、ホームページより調査票をダウンロードして Excel ファイルで回答した施設が 135 か所、インターネットサーベイランス参加施設で登録済みの患者ファイルを使用して回答した施設が 26 か所であった。なお、サーベイランス参加施設でも調査票郵送により協力を得たところもある。

回答があった 1,444 施設のうち、患者報告があった施設は 965 施設(回答施設の 66.8 %)であった。回答率は、都道府県によって 57.9 %～ 100 %の開きがみられ、前回の調査と大きな違いはなかった。

2. 年次推移

今回の調査で報告された 2 年間の患者数は、2015 年 16,323 人(男 9,385 人、女 6,938 人)、2016 年 15,272 人(男 8,675 人、女 6,597 人)のあわせて 31,595 人(男 18,060 人、女 13,535 人)であった(表 1)。今回の集計では他施設受診の重複患者 854 人は除外した。

0-4 歳人口 10 万対罹患率は、2015 年 330.2(男 371.2、女 287.3)、2016 年 309.0(男 343.2、女 273.2)であった。2015 年の罹患率は、史上最高値になった。2 年間平均の罹患率は 0-4 歳人口 10 万対 319.6(男 357.2、女 280.2)であった。

患者数の性比(男/女)は 1.33、罹患率の性比は 1.27 でいずれも男の方が高く、前回と比較して大きな差はなかった。過去 23 回の全国調査で報告された患者を含めると 2016 年 12 月末までの患者数は、合計 362,710 人(男 209,508 人、女 153,202 人)になった。

川崎病患者数の年次推移は、表 1、図 1 に示すとおりである。1979 年、1982 年、1986 年の 3 回にわたる全国規模の流行の後、特に 1995 年頃より年次とともに患者数の上昇が続き、2010 年以降の年間の患者数は 12,000 人を超え、第 3 回目の流行年(1986 年)に匹敵する患者数となり、

2012年には第1回目の流行年(1979年)の約2倍となった。さらに2013年以降は15,000人を超えており、第2回目の流行年(1982年)の患者数を超えた。近年患者数は急勾配で加速し、今回の2015年に最高となった。しかし、2016年の患者数は、やや減少しており、今後の推移が注目される。

罹患率の年次推移をみると、表1、図2に示すように、2015年は0-4歳人口10万対330.2(男371.2、女287.3)、2016年は309.0(男343.2、女273.2)であり、2015年までは前回までの史上最高値を更新した。今回も注目したい点は、少子化の影響により、2016年の報告患者数は第2回目の流行時(1982年)の患者数(15,519人)とほぼ同じ数であるのに対して、罹患率は1.58倍に上昇したことである。

3. 月別推移

最近6年間の月別、性別患者数を図3に示す。月別患者数は各年とも同じような季節変動を示し、すべての月で男が多くなっている。季節変動を見ると、2015年までは毎年、秋(9-10月)は少なく、春から夏にかけての増加が観察された。2015年1月のピークは史上最高値を示していた。しかし、2016年は夏(6-7月)は少なく、秋(10-11月)に増加が観察された。過去3回(2011年～2016年)の調査について、月別患者数の平均を観察したところ、季節傾向はきれいな曲線(冬(2月)と秋(9-10月)に窪み)になっていた(図4)。

4. 性・年齢分布

患者数の性・年齢分布をみると、3歳未満の者の割合は全体の64.1%(男65.1%、女62.7%)であった(表2)。2015年、2016年平均の性・年齢別罹患率では、男女とも月齢9-11か月にピーク(人口10万対男598.3、女431.9)をもつ一峰性の山がみられた。前回実施した2013年、2014年の成績でも月齢9-11か月にピークがみられたが、男女とも今回の山の方が高かった。罹患率の性比は、月齢6-8か月の者で最も大きく1.51であった(図5)。

5. 地域分布

2年間の患者住所都道府県別報告数が最も多かったのは東京で3,729人、次いで神奈川2,416人、愛知2,202人、大阪2,176人の順であった。これは前回と同様の都道府県であった。年次別都道府県別罹患率を0-4歳人口10万対で計算した(2013-2014年の罹患率は2014年の住民基本台帳人口、2015-16年の罹患率は2016年の住民基本台帳人口を用いて計算した。全国の罹患率は各年次の推計人口を用いて計算した(ただし2016年は2015年の推計人口を使用))。2015年、2016年両年とも罹患率が高いところは、埼玉、新潟、徳島などであった。2015年の罹患率が高いところは、長野、奈良などで、2016年の罹患率が高いところは、東京、和歌山などであった。今回も全国各地で局地的に患者数の増加があったと考えられる。2年間とも低いところは、岩手、富山、宮崎、沖縄などであった(表3)。

2013年～2016年の各年について、都道府県別罹患率の地図を作成した(図6)。都道府県によって回収率が異なるので、未回収施設も同じ数の患者がいると仮定して回収率を100%に補正して、0-4歳人口10万対罹患率の地域差を示した。2013年に罹患率の高い地域は、千葉、愛知、徳島、山口で、2014年には、隣接する地方に高率地域が拡大した。2015年にはさらに高率地域が周りの県に拡大した。2016年には関東地方の一部、四国の一部を残して高率地域は縮小した。

6. 診断

診断基準への一致度をみると、定型例77.8%(男77.6%、女78.0%)、不定型例1.6%(男1.8%、女1.4%)、不全型20.6%(男20.6%、女20.5%)であった。今回、定型例、不定型例が少し減少し、不全型がやや増加した。年齢別には、2歳未満の若年齢および年長児で不全型の割合が比較的高く、前回の調査とほぼ同様の結果であった(表4)。

なお、定型例(調査票では「确实A」とした)は「川崎病診断の手引き 改訂5版」(2002年2月に診断の手引きが改訂され、第17回全国調査から改訂5版を使用)に示された6つの主要症状のうち5つ以上の症状を伴う者、不定型例(「确实B」)は4つの症状しか認められなくても、経過中に断層心エコー法もしくは心血管造影法で、冠動脈瘤(いわゆる拡大を含む)が確認され、他の疾患が除外された者をいう。また不全型(「不全型」)は上記のいずれにも合致しないが、主治医が川崎病の疑いありと診断して全国調査に報告した者をいう。

不全型の主要症状の数は4つが最も多く70.5%、次いで3つ23.3%、2つ5.4%、1つ0.7%、不明0.2%であった。性別にみてもほぼ同様の割合であった。年齢別には、1歳未満で4つ以上の症状を持つ患者の割合がやや低くなっていた(表5)。

7. 家族歴

同胞例ありの割合は報告患者中661人(2.1%) (男379人(2.1%)、女282人(2.1%))であった。

両親のいずれかに川崎病の既往歴ありは368人(男195人、女173人)報告され、報告患者中1.2% (男1.1%、女1.3%)であった。既往歴を有する両親の内訳は父172人、母191人、父母両方4人、不明1人であった。今回、両親に川崎病の既往歴ありの患者は増加していた。父母両方に既往歴ありも4人いた。

8. 再発例

再発例は報告患者中1,331人(4.2%) (男789人(4.4%)、女542人(4.0%))であり、前回と同様であった。

性・年齢別にみると男は5歳まで、女は7歳までは年齢とともに再発患者の割合が増加していた。

9. 死亡例

死亡例は2年間で2人(男1人、女1人)報告され、致命率は0.01%であった。死亡例の初診時年齢は8か月が1人、5か月が1人であった。死亡時の年齢は、8か月が1人、9か月が1人であり、1人は急性期の死亡であった。診断は2人とも不全型であった。心障害は2人とも「瘤あり」であった(表6)。

10. 心障害例

心障害については、「初診時の異常」、発病後1か月以内に出現した「急性期の異常」と1か月以降も残存する「後遺症」の3時点に分けて調査を実施した。

報告患者中、「初診時の異常」は1,269人(4.0%) (男839人(4.6%)、女430人(3.2%))であった。「急性期の異常」は2,491人(7.9%) (男1,622人(9.0%)、女869人(6.4%))、「後遺症」は717人(2.3%) (男491人(2.7%)、女226人(1.7%))であった。初診時、急性期、後遺症ともに異常ありの割合は前回よりも減少した。「後遺症」は「急性期の異常」に比べて男女とも約3分の1以下であった。性・年齢別にみると若年児と高年児が高く、ゆるやかなU字型のカーブを示し、年長児では男女の差がなくなっていた(図7)。「急性期の異常」は第15回調査(1997-1998年)では20.1%に見られたが、第24回調査(2015-2016年)では8.5%となり、8年間に40%の低下が見られた。「後遺症」はゆるやかに減少していた(図8)。

報告患者に占める「初診時の異常」の種類別割合は冠動脈の拡大951人(3.01%)、弁膜病変254人(0.80%)、瘤103人(0.33%)、巨大瘤15人(0.05%)、狭窄1人(0.003%)、心筋梗塞0人(0%)であった。性別にみると、弁膜病変以外すべて男が高かった。出現率を2歳未満と、2歳以上に分けてみると、巨大瘤、弁膜病変の出現率は2歳以上で高率にみられた。出現率を定型例、不定型例、不全型に分けてみると、すべて不定型例で高率に見られた。

報告患者に占める「急性期の異常」の種類別割合は冠動脈の拡大1,767人(5.60%)、弁膜病変487人(1.54%)、瘤260人(0.82%)、巨大瘤42人(0.13%)、狭窄5人(0.02%)、心筋梗塞0人(0%)であった。性別にみると弁膜病変以外はすべて男で高かった。出現率を2歳未満と、2歳以上に分けてみると、瘤、拡大の出現率は2歳未満で高率にみられた。出現率を定型例、不定型例、不全型に分けてみると、すべて不定型例で高率に見られた。

報告患者に占める「後遺症」の種類別割合は冠動脈の拡大412人(1.30%)、瘤202人(0.64%)、弁膜病変113人(0.36%)、巨大瘤40人(0.13%)、狭窄7人(0.02%)、心筋梗塞5人(0.02%)であった。性別にみると、弁膜病変以外すべて男で高かった。出現率を2歳未満と、2歳以上に分けてみると、瘤、拡大、狭窄の出現率は、2歳未満で高率にみられた。特に巨大瘤は、2歳以上が2歳未満の2倍の出現率であった。出現率を定型例、不定型例、不全型に分けてみると、巨大瘤、瘤、拡大は不定型例で高率に見られた。

心障害の種類別の出現頻度の観察では、巨大瘤は初診時に比べ、急性期、後遺症で約2.5倍に

なっていた。瘤は初診時に比べて、急性期に 2.5 倍となり、その後、後遺症でやや減少した。冠動脈の拡大は、初診時に比べ、急性期に約 2 倍となり、その後後遺症では初診時の半分以下に減少した。狭窄、心筋梗塞はあまり変化がみられなかった。弁膜病変は、初診時に比べ後遺症では約 4 割に減少していた (表 7)。

11. 初診時病日および初回免疫グロブリン(IG)治療開始時病日

患者の初診時病日は第 4 病日が最も多く 25.1 %であり、第 4 病日までに受診した者は 64.3 %であった。2 歳未満と 2 歳以上に分けてみると、第 4 病日までに受診した者は 2 歳未満では 68.8 %を占めていたが、2 歳以上では 60.4 %であり、2 歳以上の年長児の受診が遅れる傾向がみられた。

初回 IG の投与開始時病日は第 5 病日が最も多く 34.2 %であった。年齢別にみると、第 5 病日までに投与を開始された者の割合は 2 歳未満では 74.8 %、2 歳以上では 65.3 %であり、2 歳未満で早期に投与を開始する傾向がみられた (表 8)。

12. 免疫グロブリン(IG)治療とステロイド併用

IG 治療を受けた者は 93.5 % (男 93.7 %、女 93.3 %)であり、性差はみられなかった。IG 治療を受けた者の割合は高年齢になるとやや減少していた。(表 9)。

IG 使用者のうち 17.8 %が不応例であった。性別では男、年齢別では、年長児に不応例が多かった (表 10)。

初回 IG 投与時にステロイド併用ありの割合は、13.0 %であり、前回より少し増加した。性差はみられず、年齢別には、年齢が高くなるにつれ併用ありの割合が高くなっていた。診断別にみると、定型例が多く、不全型でやや少なかった。ステロイド併用ありの内容はパルスが 14.7 %、パルス以外が 86.6 %でパルス以外が前回より増加した(1 人の患者に両方使用した例があるため合計は総数を超える)。パルスは女に多く、パルス以外は男が多かった。年齢別にはパルスは 1 歳未満が少なく、パルス以外では年齢差はみられなかった。診断別ではパルスは不定型例が多かった (表 11)。

また、初回 IG は報告施設で投与された者が 97.9 %を占めていた。性別、年齢別にみても同様の割合であった (表 12)。

初回 IG の 1 日あたりの投与量は、1900-2099mg/kg の者が最も多く 94.4 %、次いで 900-1099mg/kg が 3.4 %であった。投与期間は 1 日が最も多く 97.5 %、次いで 2 日 2.5 %であった。

初回 IG の 1 日投与量と使用日数から計算した使用総量は、1900-2099mg/kg が最も多く 95.8 %、次いで 2100mg/kg+が 1.7 %、900-1099mg/kg が 1.5 %、1700-1899mg/kg が 0.7 %であった。前回よりも 2100mg/kg+が 900-1099mg/kg よりも多くなっていた。前回同様、使用総量 2000mg/kg 以上の大量投与が治療を受けた者の 9 割以上を占めていた (表 13、図 9)。

13. 初回免疫グロブリン(IG)投与後の追加治療法

追加治療(追加 IG 投与)の割合は、初回 IG 使用例のうち 19.6 % (再燃時の IG 投与を含む)であった。性別では男が多く、2 歳未満と 2 歳以上に分けてみると 2 歳以上が多かった。診断別では定型例が多かった。

追加治療(ステロイド投与)の割合は初回 IG 使用例の 6.9 %であった。性別では男が多く、2 歳未満と 2 歳以上に分けてみると、2 歳以上が多かった。診断別では不定型例がやや多かった。

追加治療(infliximab投与)の割合は初回 IG 使用例の 1.4 %であった。性別では男が多く、2 歳未満と 2 歳以上に分けてみると、2 歳以上が多かった。診断別では定型例が多かった。

追加治療(免疫抑制剤投与)の割合は初回 IG 使用例の 1.3 %であった。性別では男が多く、2 歳未満と 2 歳以上に分けてみると、2 歳以上が多かった。診断別では定型例がやや多かった。

追加治療(血漿交換)の割合は初回 IG 使用例の 0.5 %であった。性別では男が多く、2 歳未満と 2 歳以上では、2 歳以上でやや多かった。診断別では不定型例が多かった (表 14)。

同様に、初回 IG 不応例について追加治療の割合をみた (表 15)。初回 IG 不応例の追加治療(追加 IG 投与)の割合は、90.6 %であった。性別では男が多かった。2 歳未満と 2 歳以上に分けてみると、2 歳未満でやや多かった。診断別では定型例が多かった。

初回 IG 不応例の追加治療(ステロイド投与)の割合は 28.9 %であった。性別では男が多く、2 歳未満と 2 歳以上に分けてみると、2 歳以上が多かった。診断別では不定型例が多かった。

初回 IG 不応例の追加治療(infliximab投与)の割合は 7.3 %であった。性別では男が多く、2歳未満と2歳以上に分けてみると、2歳以上が多かった。診断別では定型例が多かった。

初回 IG 不応例の追加治療(免疫抑制剤投与)の割合は 5.4 %であった。性別では男が多く、年齢差はなかった。診断別では定型例が多かった。

初回 IG 不応例の追加治療(血漿交換)の割合は 2.5 %であった。性別では男が多く、2歳未満と2歳以上に分けてみると、2歳未満がやや多かった。診断別では不定型例が多かった。

14. 検査所見

今回の調査では血小板数(初診時・最高値・最低値)および最高値・最低値の観察病日を調べた。(表16、表17)

血小板数の分布では、初診時は 30-40 万/ μ Lが最も多く 37.7 %、最高値は 50-60 万/ μ Lが最も多く 23.6 %、最低値は 20-30 万/ μ Lが最も多く 37.8 %であった。

血小板数の観察病日では、最高値は 10-14 病日が最も多く 58.6 %、最低値は 5-9 病日が最も多く 52.5 %であった。

15. 転院

転院ありの割合は全体の 4.3 %で男がやや多く、年齢別では、若年児と年長児が多かった。心障害の有無別では、初診時の異常、急性期の異常、後遺症ともに心障害ありと不明に転院が多かった。診断別では不定型例に転院がやや多かった(表18)。

III. 要約

1. 2年間の川崎病報告患者数は 31,595 人(2015 年 16,323 人[男 9,385 人、女 6,938 人]、2016 年 15,272 人[男 8,675 人、女 6,597 人]、性比 1.34)であり、2016 年 12 月末までの患者数は、合計 362,710 人(男 209,508 人、女 153,202 人)になった。
2. 0-4 歳人口 10 万対罹患率は、2015 年 330.2 (男 371.2、女 287.3)、2016 年 309.0 (男 343.2、女 273.2)であった。2015 年の罹患率は、史上最高値となった。
3. 月別患者数は各年とも同じような季節変動を示し、すべての月で男が多くなっていた。季節変動を見ると、2015 年までは秋(9-10 月)は少なく、春から夏にかけての増加が観察された。2015 年 1 月のピークは史上最高値を示していた。しかし、2016 年は夏(6-7 月)は少なく、秋(10-11 月)に増加が観察された。
4. 2015 年、2016 年平均の性・年齢別罹患率では、男女とも月齢 9-11 か月にピーク(人口 10 万対 男 598.3、女 431.9)をもつ一峰性の山がみられた。前回実施した 2013 年、2014 年の成績でも月齢 9-11 か月にピークがみられたが、男女とも今回の山の方が高かった。罹患率の性比は、月齢 6-8 か月の者で最も大きく 1.51 であった。
5. 最近 4 年間の都道府県別罹患率の地域差をみると、2013 年に罹患率の高い地域は、千葉、愛知、徳島、山口で、2014 年には、隣接する地方に高率地域が拡大した。2015 年にはさらに高率地域が周りの県に拡大した。2016 年には関東地方の一部、四国の一部を残して高率地域は縮小した。今回も全国各地で局地的に患者数の増加があったと考えられる
6. 診断基準への一致度をみると、定型例 77.8 % (男 77.6 %、女 78.0 %)、不定型例 1.6 % (男 1.8 %、女 1.4 %)、不全型 20.6 % (男 20.6 %、女 20.5 %)であった。
7. 不全型の主要症状の数は 4 つが最も多く 70.5 %、次いで 3 つ 23.3 %、2 つ 5.4 %、1 つ 0.7 %、不明 0.2 %であった。
8. 同胞例ありの割合は報告患者中 661 人(2.1 %) (男 379 人(2.1 %)、女 282 人(2.1 %))であった。両親のいずれかに川崎病の既往歴ありは 368 人(男 195 人、女 173 人)報告され、報告患者中 1.2 % (男 1.1 %、女 1.3 %)であった。両親の内訳は父 172 人、母 191 人、父母両方 4 人、不明 1 人であった。再発例は報告患者中 1,331 人(4.2 %) (男 789 人(4.4 %)、女 542 人(4.0 %))であった。死亡例は 2 年間で 2 人(男 1 人、女 1 人)報告され、致命率は 0.01 %であった。
9. 心障害のうち、「初診時の異常」は 1,269 人(4.0 %)であった。種類別割合は冠動脈の拡大 3.01 %、弁膜病変 0.80 %、瘤 0.33 %、巨大瘤 0.05 %、狭窄 0.003 %、心筋梗塞 0 %であった。

10. 心障害のうち「急性期の異常」は2,491人(7.9%)であった。種類別割合は冠動脈の拡大5.60%、弁膜病変1.54%、瘤0.82%、巨大瘤0.13%、狭窄0.02%、心筋梗塞0%であった。
11. 心障害のうち「後遺症」は717人(2.3%)であった。種類別割合は冠動脈の拡大1.30%、瘤0.64%、弁膜病変0.36%、巨大瘤0.13%、狭窄0.02%、心筋梗塞0.02%であった。
12. 患者の初診時病日は第4病日が最も多く25.1%であり、第4病日までに受診した者は64.3%であった。初回IGの投与開始時病日は第5病日が最も多く34.2%であった。
13. IG治療を受けた者は93.5%であった。IG使用者のうち17.8%が不応例であった。
14. 初回IG投与時にステロイド併用ありの割合は、13.0%であった。ステロイド併用ありの内容はパルスが14.7%、パルス以外が86.6%であった。
15. 初回IGは報告施設で投与された者が97.9%を占めていた。初回IGの1日あたりの投与量は、1900-2099mg/kgの者が最も多く94.4%を占めていた。投与期間は1日が最も多く97.5%であった。初回使用総量は、1900-2099mg/kgが最も多く95.8%で、2000mg/kg以上の大量投与が治療を受けた者の9割以上を占めていた。
16. 追加治療(追加IG投与)の割合は、初回IG使用例のうち19.6%(再燃時のIG投与を含む)であった。追加治療(ステロイド投与)の割合は6.9%、追加治療(infliximab投与)の割合は1.4%、追加治療(免疫抑制剤投与)の割合は1.3%、追加治療(血漿交換)の割合は0.5%であった。
17. 初回IG不応例についての追加治療(追加IG投与)の割合は90.6%、追加治療(ステロイド投与)の割合は28.9%、追加治療(infliximab投与)の割合は7.3%、追加治療(免疫抑制剤投与)の割合は5.4%、追加治療(血漿交換)の割合は2.5%であった。
18. 血小板数の分布では、初診時は30-40万/ μ Lが最も多く37.7%、最高値は50-60万/ μ Lが最も多く23.6%、最低値は20-30万/ μ Lが最も多く37.8%であった。血小板数の観察病日では、最高値は10-14病日が最も多く58.6%、最低値は5-9病日が最も多く52.5%であった。
19. 転院ありの割合は全体の4.3%であった。

謝辞

第1回全国調査以来終始変わらぬご協力を賜った関係医療機関の小児科医各位に対し、本研究グループとして深く感謝します。

今回の調査にご協力いただいた医療機関名を巻末に付記します。

本報告書は自治医科大学公衆衛生学ホームページ <http://www.jichi.ac.jp/dph/kawasaki.html> でも公開しています。

文献

- 1) 小児MCL S研究班(班長:神前章雄). 小児MCL S全国調査成績, 昭和45年度予備調査成績と昭和46年度個人調査成績の概要. 1971.
- 2) 重松逸造, 柳川洋. いわゆる川崎病について. 日本公衛誌 1975; 22(6): 306-312.
- 3) 柳川洋. 川崎病の実態. 公衆衛生情報 1975; 5(12): 22-29.
- 4) 柳川洋. 川崎病の疫学. 日本臨床 1976; 34(2): 275-283.
- 5) 川崎病研究班. 最近(1977-78年)におけるMCL S(川崎病)の実態, -第5回全国調査結果の速報-. 小児科 1979; 20(7): 755-757.
- 6) 川崎病研究班. MCL S(川崎病の多発) -第6回全国調査成績の速報-. 小児科 1981; 22(1): 53-58.
- 7) 川崎病研究班. 最近(1981年1月-82年6月)におけるMCL S(川崎病)の実態, -第7回全国調査成績の速報-. 小児科 1983; 24(1): 53-58.
- 8) 厚生省川崎病研究班. 第8回川崎病全国調査成績. 小児科 1985; 26(9): 1049-1053.
- 9) 柳川洋. 川崎病の全国調査成績. 川崎病疫学データのすべて(日本心臓財団川崎病原因究明委員会編). 東京: ソフトサイエンス社, 1986; 37-51.
- 10) 厚生省川崎病研究班. 第9回川崎病全国調査成績. 小児科 1987; 28(9): 1059-1066.
- 11) 柳川洋, 屋代真弓, 藤田委由. 川崎病の全国調査成績. 川崎病(川崎富作, 重松逸造, 濱島義博, 柳川洋, 加藤裕久編). 東京: 南江堂, 1988; 18-31.
- 12) 厚生省川崎病研究班. 第10回川崎病全国調査成績. 小児科 1990; 31(5): 569-576.
- 13) 厚生省川崎病研究班. 第11回川崎病全国調査成績. 小児科 1992; 33(3): 309-316.
- 14) 厚生省川崎病研究班. 第12回川崎病全国調査成績. 小児科 1994; 35(1): 61-73.
- 15) 厚生省川崎病研究班. 第13回川崎病全国調査成績. 小児科 1996; 37(4): 363-383.
- 16) 厚生省川崎病研究班. 第14回川崎病全国調査成績. 小児科診療 1998; 61(3): 406-420.
- 17) 厚生省川崎病研究班. 第15回川崎病全国調査成績. 小児科診療 2000; 63(1): 121-132.
- 18) 厚生省川崎病研究班. 第16回川崎病全国調査成績. 小児科診療 2002; 65(2): 332-342.
- 19) 柳川洋, 中村好一, 屋代真弓, 川崎富作(編). 川崎病の疫学-30年間の総括-. 東京: 診断と治療社, 2002.
- 20) 厚生労働省川崎病研究班. 第17回川崎病全国調査成績. 小児科診療 2004; 67(2): 313-323.
- 21) 厚生労働省川崎病研究班. 第18回川崎病全国調査成績. 小児科診療 2006; 69(2): 281-292.
- 22) 屋代真弓, 中村好一, 柳川洋. 川崎病疫学像の最近の推移 1989 ~ 2004. 日本小児科学会雑誌. 2007; 111(6): 740-745.
- 23) 厚生労働省川崎病研究班. 第19回川崎病全国調査成績. 小児科診療 2008; 71(2): 349-360.
- 24) 川崎病全国調査担当グループ(特定非営利活動法人川崎病研究センター). 第20回川崎病全国調査成績. 小児科診療 2010; 73(1): 143-156.
- 25) 川崎病全国調査担当グループ(特定非営利活動法人川崎病研究センター). 第21回川崎病全国調査成績. 小児科診療 2012; 75(3): 507-523.
- 26) 川崎病全国調査担当グループ(特定非営利活動法人川崎病研究センター). 第22回川崎病全国調査成績. 小児科診療 2014; 77(2): 271-290.
- 27) 川崎病全国調査担当グループ(特定非営利活動法人川崎病研究センター). 第23回川崎病全国調査成績. 小児科診療 2016; 79(2): 273-292.
- 28) Kawasaki T, Kosaki F, Okawa S, Shigematsu I, Yanagawa H. A new infantile acute febrile mucocutaneous lymph node syndrome (MLNS) prevailing in Japan. Pediatrics 1974; 54: 271-276.
- 29) Yanagawa H, Kawasaki T, Shigematsu I. Nationwide survey on Kawasaki disease in Japan. Pediatrics 1987; 80: 58-62.
- 30) Yanagawa H, Nakamura Y, Yashiro M, Fujita Y, Nagai M, Kawasaki T, Aso S, Imada Y, Shigematsu I. A nationwide survey of Kawasaki disease in 1985-1986 in Japan. J Infect Dis 1988; 158(6): 1296-1301.
- 31) Yanagawa H, Yashiro M, Nakamura Y, Kawasaki T, Kato H. Epidemiologic pictures of Kawasaki disease in Japan: From the nationwide survey in 1991 and 1992. Pediatrics 1995; 95(4): 475-479.
- 32) Yanagawa H, Yashiro M, Nakamura Y, Kawasaki T, Kato H. Results of 12 nationwide epidemiological incidence surveys of Kawasaki disease in Japan. Arch Pediatr Adolesc Med

- 1995; 149: 779-783.
- 3 3) Yanagawa H, Nakamura Y, Yashiro M, Ojima T, Koyanagi H, Kawasaki T. Update of the epidemiology of Kawasaki disease in Japan, From the results of 1993-94 nationwide survey. *J Epidemiol* 1996; 6 (3): 148-157.
 - 3 4) Yanagawa H, Nakamura Y, Yashiro M, Ojima T, Tanihara S, Oki I, Zhang T. Results of the nationwide epidemiologic survey of Kawasaki disease in 1995 and 1996 in Japan. *Pediatrics* 1998; 102 (6): e65.
 - 3 5) Yanagawa H, Nakamura Y, Yashiro M, Oki I, Hirata S, Zhang T, Kawasaki T. Incidence survey of Kawasaki disease in 1997 and 1998 in Japan. *Pediatrics* 2001; 107 (3): e33.
 - 3 6) Nakamura Y, Yashiro M, Uehara R, Oki I, Watanabe M, Yanagawa H. Epidemiologic Features of Kawasaki Disease in Japan:Results from Nationwide Survey in 2005-2006. *J Epidemiol* 2008; 18(4): 167-172.
 - 3 7) Nakamura Y, Yashiro M, Uehara R, Oki I, Watanabe M, Yanagawa H. Monthly observation of the numbers of patients and incidence rates of Kawasaki disease in Japan: results from nationwide surveys. *J Epidemiol* 2008; 18(6): 273-279.
 - 3 8) Nakamura Y, Yashiro M, Uehara R, Sadakane A, Chihara I, Aoyama Y, Kotani K, Yanagawa H. Epidemiologic features of Kawasaki disease in Japan: Results of the 2007-2008 nationwide survey. *J Epidemiol* 2010; 20(4): 302-307.
 - 3 9) Nakamura Y, Yashiro M, Uehara R, Sadakane A, Tsuboi S, Aoyama Y, Kotani K, Tsogzolbaatar EO, Yanagawa H. Epidemiologic features of Kawasaki disease in Japan: Results of the 2009-2010 nationwide survey. *J Epidemiol* 2012; 22(2): 216-221.
 - 4 0) Makino N, Nakamura Y, Yashiro M, Ae R, Tsuboi S, Aoyama Y, Kojo K, Uehara R, Kotani K, Yanagawa H: Descriptive epidemiology of Kawasaki disease in Japan, 2011-2012: from the results of the 22nd nationwide survey. *J Epidemiol* 2015; 25 (3):239-245.

文献 33 と 36-40 は **Journal of Epidemiology** のサイト (<http://www.jstage.jst.go.jp/article/jea/>) で、
文献 34 と 35 は **Pediatrics** のサイト (<http://www.pediatrics.org/cgi/content/>) で読むことができます。

[表1]性別患者数、罹患率、死亡数、致命率の推移

年次	患者数			0-4歳人口10万対年間罹患率*			死亡数 (致命率%)
	計	男	女	計	男	女	
～1964	88	58	30	1.1	1.4	0.8	—
1965	61	33	28	0.8	0.8	0.7	—
1966	79	49	30	1.0	1.2	0.8	—
1967	101	60	41	1.2	1.4	1.0	2(1.98)
1968	310	177	133	3.7	4.1	3.2	6(1.94)
1969	461	281	180	5.3	6.3	4.3	9(1.95)
1970	887	527	360	10.1	11.8	8.4	10(1.13)
1971	804	480	324	8.7	10.1	7.1	10(1.24)
1972	1,135	658	477	12.0	13.5	10.4	16(1.41)
1973	1,524	928	596	15.6	18.4	12.5	34(2.23)
1974	1,963	1,157	806	19.7	22.6	16.7	20(1.02)
1975	2,216	1,332	884	22.3	26.1	18.3	16(0.72)
1976	2,337	1,406	931	23.9	28.0	19.6	15(0.64)
1977	2,798	1,706	1,092	29.3	34.8	23.5	17(0.61)
1978	3,459	2,064	1,395	37.7	43.7	31.2	14(0.40)
1979	6,867	3,987	2,880	78.0	88.1	67.3	34(0.50)
1980	3,932	2,317	1,615	46.5	53.4	39.2	8(0.20)
1981	6,383	3,677	2,706	78.3	87.9	68.2	16(0.25)
1982	15,519	8,762	6,757	196.1	215.8	175.4	46(0.30)
1983	5,961	3,441	2,520	77.3	86.9	67.1	15(0.25)
1984	6,514	3,790	2,724	86.0	97.5	73.9	17(0.26)
1985	7,611	4,430	3,181	102.1	116.4	87.1	10(0.13)
1986	12,847	7,250	5,597	176.8	194.7	157.9	18(0.14)
1987	5,256	3,066	2,190	73.8	84.0	63.1	9(0.17)
1988	5,217	3,056	2,161	75.3	86.0	64.1	4(0.08)
1989	5,591	3,251	2,340	83.6	94.7	71.9	8(0.14)
1990	5,706	3,268	2,438	88.1	98.4	77.3	12(0.21)
1991	5,677	3,354	2,323	90.1	103.8	75.7	7(0.12)
1992	5,544	3,250	2,294	89.9	102.8	76.4	2(0.04)
1993	5,389	3,155	2,234	89.1	101.6	75.9	11(0.20)
1994	6,069	3,574	2,495	101.1	115.9	85.4	2(0.03)
1995	6,107	3,548	2,559	102.6	116.4	88.2	6(0.09)
1996	6,424	3,691	2,733	108.4	121.6	94.6	4(0.06)
1997	6,373	3,690	2,683	108.0	122.0	93.2	9(0.14)
1998	6,593	3,799	2,794	111.5	125.3	96.9	2(0.03)
1999	7,047	4,102	2,945	119.6	135.8	102.6	3(0.04)
2000	8,267	4,758	3,509	141.1	158.5	122.8	5(0.06)
2001	8,113	4,588	3,525	138.8	153.2	123.7	0(-)
2002	8,839	5,156	3,683	151.9	172.8	130.0	2(0.02)
2003	9,146	5,281	3,865	159.2	179.2	138.2	4(0.04)
2004	9,992	5,778	4,214	175.9	198.3	152.4	4(0.04)
2005	10,041	5,868	4,173	181.0	206.5	154.2	1(0.01)
2006	10,434	6,024	4,410	191.4	215.8	165.9	1(0.01)
2007	11,581	6,684	4,897	215.3	242.6	186.6	2(0.02)
2008	11,756	6,839	4,917	219.9	249.6	188.5	4(0.03)
2009	10,975	6,249	4,726	206.2	229.0	182.2	0(-)
2010	12,755	7,266	5,489	242.8	270.2	214.0	1(0.01)
2011	12,774	7,406	5,368	243.1	275.2	209.4	1(0.01)
2012	13,917	8,036	5,881	266.4	300.4	230.7	3(0.02)
2013	15,696	9,044	6,652	302.5	340.1	262.9	1(0.01)
2014	15,979	9,097	6,882	309.9	344.1	273.9	7(0.04)
2015	16,323	9,385	6,938	330.2	371.2	287.3	1(0.01)
2016	15,272	8,675	6,597	309.0	343.2	273.2	1(0.01)
計	362,710	209,508	153,202	—	—	—	450(0.12)

*罹患率の計算には人口動態統計の分母に用いる日本人人口(5年ごとの国勢調査人口および各年次の推計人口で、人口動態統計に掲載されているもの。ただし、2016年は2015年の推計人口)を用いた。前回調査の2014年は、2013年の人口を用いたので今回2014年の人口で修正した。

[表2]年齢別、年次別、性別患者数および罹患率(人口10万対)

年齢	患者数											
	総数				2015年				2016年			
	総数	罹患率*	男	女	総数	罹患率*	男	女	総数	罹患率*	男	女
総数**	31,595	319.6	18,060	13,535	16,323	330.2	9,385	6,938	15,272	309.0	8,675	6,597
0-2か月	517	109.1	270	247	257	108.4	138	119	260	109.7	132	128
3-5か月	1,400	295.4	849	551	718	303.0	439	279	682	287.8	410	272
6-8か月	2,047	431.9	1,252	795	1,083	457.0	649	434	964	406.8	603	361
9-11か月	2,450	516.9	1,448	1,002	1,194	503.8	728	466	1,256	530.0	720	536
12-14か月	2,202	458.3	1,276	926	1,102	458.7	629	473	1,100	457.9	647	453
15-17か月	2,128	442.9	1,245	883	1,035	430.8	601	434	1,093	454.9	644	449
18-20か月	1,944	404.6	1,151	793	979	407.5	592	387	965	401.7	559	406
21-23か月	1,884	392.1	1,070	814	962	400.4	537	425	922	383.8	533	389
2歳-2歳5か月	3,063	306.9	1,742	1,321	1,594	319.4	920	674	1,469	294.4	822	647
2歳6か月-2歳11か月	2,612	261.7	1,453	1,159	1,342	268.9	761	581	1,270	254.5	692	578
3歳-3歳5か月	2,227	222.0	1,230	997	1,150	229.3	642	508	1,077	214.8	588	489
3歳6か月-3歳11か月	1,927	192.1	1,057	870	1,030	205.4	567	463	897	178.9	490	407
4歳	2,897	140.2	1,581	1,316	1,515	146.7	838	677	1,382	133.8	743	639
5歳	1,693	80.3	924	769	903	85.7	492	411	790	75.0	432	358
6歳	1,013	48.1	565	448	587	55.7	326	261	426	40.4	239	187
7歳	612	29.0	344	268	335	31.8	195	140	277	26.3	149	128
8歳	368	17.5	211	157	206	19.6	125	81	162	15.4	86	76
9歳	233	11.1	138	95	126	12.0	73	53	107	10.2	65	42
10歳以上	378	3.4	254	124	205	3.7	133	72	173	3.1	121	52

*罹患率の計算には2015年人口動態統計の分母に用いる日本人人口を用いた。

**総数の罹患率の計算には、0-4歳日本人人口を用いた。

[表3]患者住所都道府県別、年次別、性別患者数および罹患率(0-4歳人口10万対)

	2013年				2014年				2015年				2016年			
	患者数			罹患率*	患者数			罹患率*	患者数			罹患率*	患者数			罹患率*
	総数	男	女		総数	男	女		総数	男	女		総数	男	女	
全国**	15,696	9,044	6,652	302.5	15,979	9,097	6,882	309.9	16,323	9,385	6,938	330.2	15,272	8,675	6,597	309.0
1:北海道	587	334	253	298.0	600	326	274	304.6	532	302	230	281.5	504	296	208	266.7
2:青森	145	77	68	308.5	144	76	68	306.4	128	74	54	284.4	128	90	38	284.4
3:岩手	95	53	42	202.1	114	65	49	242.6	89	48	41	193.5	85	56	29	184.8
4:宮城	253	151	102	269.1	257	150	107	273.4	282	167	115	306.5	277	172	105	301.1
5:秋田	93	48	45	281.8	113	67	46	342.4	87	53	34	280.6	72	42	30	232.3
6:山形	138	74	64	320.9	134	74	60	311.6	141	69	72	343.9	127	78	49	309.8
7:福島	204	128	76	283.3	225	131	94	312.5	207	127	80	291.5	179	99	80	252.1
8:茨城	329	175	154	281.2	331	189	142	282.9	385	202	183	340.7	358	212	146	316.8
9:栃木	241	144	97	297.5	242	140	102	298.8	286	165	121	366.7	252	142	110	323.1
10:群馬	293	170	123	375.6	213	112	101	273.1	259	147	112	350.0	237	129	108	320.3
11:埼玉	952	543	409	321.6	1,006	590	416	339.9	1,066	586	480	368.9	1,046	601	445	361.9
12:千葉	872	531	341	348.8	814	474	340	325.6	865	497	368	357.4	774	432	342	319.8
13:東京	1,802	1,026	776	344.6	1,780	1,000	780	340.3	1,841	1,102	739	345.4	1,888	1,077	811	354.2
14:神奈川	1,250	735	515	329.8	1,154	649	505	304.5	1,204	655	549	325.4	1,212	703	509	327.6
15:新潟	229	137	92	260.2	306	187	119	347.7	332	196	136	390.6	287	162	125	337.6
16:富山	145	82	63	362.5	117	71	46	292.5	69	46	23	176.9	65	37	28	166.7
17:石川	124	74	50	258.3	166	90	76	345.8	137	75	62	291.5	156	92	64	331.9
18:福井	98	63	35	288.2	122	70	52	358.8	88	53	35	275.0	70	41	29	218.8
19:山梨	101	42	59	315.6	69	39	30	215.6	105	59	46	338.7	94	53	41	303.2
20:長野	253	141	112	297.6	358	204	154	421.2	326	178	148	397.6	273	156	117	332.9
21:岐阜	237	133	104	278.8	325	180	145	382.4	246	144	102	303.7	212	112	100	261.7
22:静岡	344	197	147	221.9	348	198	150	224.5	377	219	158	254.7	399	218	181	269.6
23:愛知	1,131	651	480	334.6	1,125	624	501	332.8	1,136	661	475	345.3	1,066	607	459	324.0
24:三重	196	104	92	261.3	225	130	95	300.0	199	111	88	276.4	183	94	89	254.2
25:滋賀	190	106	84	283.6	241	152	89	359.7	222	133	89	341.5	188	110	78	289.2
26:京都	349	196	153	342.2	294	164	130	288.2	329	204	125	329.0	329	201	128	329.0
27:大阪	1,101	651	450	303.3	1,082	624	458	298.1	1,135	625	510	320.6	1,041	543	498	294.1
28:兵庫	799	453	346	338.6	758	441	317	321.2	632	384	248	277.2	587	326	261	257.5
29:奈良	179	102	77	331.5	177	97	80	327.8	206	113	93	396.2	175	106	69	336.5
30:和歌山	112	63	49	302.7	111	67	44	300.0	115	70	45	319.4	136	88	48	377.8
31:鳥取	53	31	22	220.8	42	21	21	175.0	84	47	37	350.0	46	22	24	191.7
32:島根	66	37	29	235.7	66	33	33	235.7	92	56	36	328.6	69	39	30	246.4
33:岡山	241	126	115	293.9	264	158	106	322.0	293	173	120	366.2	240	143	97	300.0
34:広島	333	208	125	264.3	435	254	181	345.2	398	240	158	326.2	354	199	155	290.2
35:山口	144	86	58	257.1	139	85	54	248.2	172	112	60	324.5	178	104	74	335.8
36:徳島	91	44	47	313.8	90	53	37	310.3	119	67	52	425.0	102	53	49	364.3
37:香川	106	60	46	258.5	115	66	49	280.5	123	73	50	307.5	114	66	48	285.0
38:愛媛	98	57	41	175.0	153	84	69	273.2	131	78	53	242.6	135	74	61	250.0
39:高知	87	48	39	322.2	82	51	31	303.7	76	41	35	292.3	73	42	31	280.8
40:福岡	547	342	205	236.8	578	319	259	250.2	762	431	331	334.2	596	315	281	261.4
41:佐賀	75	41	34	197.4	74	44	30	194.7	106	62	44	286.5	73	41	32	197.3
42:長崎	152	87	65	257.6	127	71	56	215.3	136	70	66	238.6	157	97	60	275.4
43:熊本	246	145	101	303.7	204	118	86	251.9	200	127	73	253.2	214	120	94	270.9
44:大分	174	106	68	355.1	159	84	75	324.5	163	94	69	346.8	123	62	61	261.7
45:宮崎	81	42	39	162.0	115	58	57	230.0	111	53	58	231.3	71	41	30	147.9
46:鹿児島	167	88	79	222.7	191	110	81	254.7	185	106	79	253.4	180	100	80	246.6
47:沖縄	127	71	56	149.4	145	85	60	170.6	142	88	54	167.1	144	80	64	169.4
48:国外	2	1	1	—	1	1	0	—	4	2	2	—	3	2	1	—
不明	64	40	24	—	48	21	27	—	0	0	0	—	0	0	0	—

*都道府県別罹患率は2013-2014年は2014年住民基本台帳人口、2015-2016年は2016年住民基本台帳人口を用いて計算した。

**全国の罹患率は各年次の推計人口を用いて計算した(ただし2014年は修正、2016年は2015年の推計人口を使用)。

[表4]性別、年齢別、診断の確実度

		総数(%)		定型例(%)		不定型例(%)		不全型(%)	
総数		31,595	(100)	24,575	(77.8)	515	(1.6)	6,494	(20.6)
性別	男	18,060	(100)	14,016	(77.6)	320	(1.8)	3,718	(20.6)
	女	13,535	(100)	10,559	(78.0)	195	(1.4)	2,776	(20.5)
年齢別	0-5か月	1,917	(100)	1,371	(71.5)	57	(3.0)	489	(25.5)
	6-11か月	4,497	(100)	3,143	(69.9)	87	(1.9)	1,265	(28.1)
	1歳	8,158	(100)	6,313	(77.4)	129	(1.6)	1,711	(21.0)
	2歳	5,675	(100)	4,726	(83.3)	69	(1.2)	880	(15.5)
	3歳	4,154	(100)	3,423	(82.4)	54	(1.3)	676	(16.3)
	4歳	2,897	(100)	2,368	(81.7)	44	(1.5)	484	(16.7)
	5歳	1,693	(100)	1,306	(77.1)	31	(1.8)	354	(20.9)
	6歳	1,013	(100)	769	(75.9)	16	(1.6)	228	(22.5)
	7歳	612	(100)	457	(74.7)	8	(1.3)	147	(24.0)
	8歳	368	(100)	273	(74.2)	8	(2.2)	87	(23.6)
	9歳	233	(100)	165	(70.8)	1	(0.4)	67	(28.8)
	10歳以上	378	(100)	261	(69.0)	11	(2.9)	106	(28.0)

「診断の確実度」不明11人は表から除いたので合計は100%にならない。

[表5]性別、年齢別、不全型の主要症状の数

		患者数 (不全型) (%)		主要症状の数(%)									
				1個		2個		3個		4個		不明	
総数		6,494	(100)	43	(0.7)	350	(5.4)	1,513	(23.3)	4,577	(70.5)	11	(0.2)
性別	男	3,718	(100)	22	(0.6)	196	(5.3)	886	(23.8)	2,610	(70.2)	4	(0.1)
	女	2,776	(100)	21	(0.8)	154	(5.5)	627	(22.6)	1,967	(70.9)	7	(0.3)
年齢別	0-5か月	489	(100)	10	(2.0)	36	(7.4)	125	(25.6)	318	(65.0)	0	—
	6-11か月	1,265	(100)	16	(1.3)	101	(8.0)	339	(26.8)	809	(64.0)	0	—
	1歳	1,711	(100)	6	(0.4)	86	(5.0)	402	(23.5)	1,211	(70.8)	6	(0.4)
	2歳	880	(100)	6	(0.7)	32	(3.6)	184	(20.9)	656	(74.5)	2	(0.2)
	3歳	676	(100)	3	(0.4)	29	(4.3)	139	(20.6)	504	(74.6)	1	(0.1)
	4歳	484	(100)	0	—	21	(4.3)	111	(22.9)	352	(72.7)	0	—
	5歳	354	(100)	0	—	17	(4.8)	68	(19.2)	268	(75.7)	1	(0.3)
	6歳	228	(100)	1	(0.4)	10	(4.4)	45	(19.7)	172	(75.4)	0	—
	7歳	147	(100)	0	—	7	(4.8)	38	(25.9)	102	(69.4)	0	—
	8歳	87	(100)	1	(1.1)	4	(4.6)	19	(21.8)	63	(72.4)	0	—
	9歳	67	(100)	0	—	3	(4.5)	19	(28.4)	45	(67.2)	0	—
	10歳以上	106	(100)	0	—	4	(3.8)	24	(22.6)	77	(72.6)	1	(0.9)

四捨五入の関係で百分率の合計は100%にならないことがある。

[表6]死亡例の情報

	初診年次	性	診断	初診時年齢	死亡時年齢	心障害	死亡原因
症例1	2015	男	不全型	8ヶ月	8ヶ月	瘤あり	心筋梗塞*
症例2	2016	女	不全型	5ヶ月	9ヶ月	瘤あり	急性硬膜下血腫

*死亡例に関する質問票には心筋梗塞と記載があったが、患者調査票は心筋梗塞の記載なし。

[表7]種類別、性別、年齢別、診断別心障害の出現率

		総数 (%)	巨大瘤 (%)	瘤 (%)	拡大 (%)	狭窄 (%)	心筋梗塞 (%)	弁膜病変 (%)	
初診時	総数	31,595 (100)	15 (0.05)	103 (0.33)	951 (3.01)	1 (0.00)	0	254 (0.80)	
	性別	男	18,060 (100)	10 (0.06)	65 (0.36)	655 (3.63)	1 (0.01)	0	140 (0.78)
		女	13,535 (100)	5 (0.04)	38 (0.28)	296 (2.19)	0	0	114 (0.84)
	年齢別	2歳未満	14,572 (100)	5 (0.03)	51 (0.35)	457 (3.14)	1 (0.01)	0	92 (0.63)
		2歳以上	17,023 (100)	10 (0.06)	52 (0.31)	494 (2.90)	0	0	162 (0.95)
	診断別	定型例	24,575 (100)	6 (0.02)	56 (0.23)	624 (2.54)	0	0	195 (0.79)
		不定型例	515 (100)	4 (0.78)	23 (4.47)	177 (34.37)	1 (0.19)	0	10 (1.94)
		不全型	6,494 (100)	5 (0.08)	24 (0.37)	149 (2.29)	0	0	49 (0.75)
	急性期	総数	31,595 (100)	42 (0.13)	260 (0.82)	1,767 (5.59)	5 (0.02)	0	487 (1.54)
		性別	男	18,060 (100)	28 (0.16)	173 (0.96)	1,192 (6.60)	4 (0.02)	0
女			13,535 (100)	14 (0.10)	87 (0.64)	575 (4.25)	1 (0.01)	0	214 (1.58)
年齢別		2歳未満	14,572 (100)	15 (0.10)	132 (0.91)	900 (6.18)	2 (0.01)	0	195 (1.34)
		2歳以上	17,023 (100)	27 (0.16)	128 (0.75)	867 (5.09)	3 (0.02)	0	292 (1.72)
診断別		定型例	24,575 (100)	27 (0.11)	170 (0.69)	1,228 (5.00)	2 (0.01)	0	377 (1.53)
		不定型例	515 (100)	8 (1.55)	38 (7.38)	229 (44.47)	1 (0.19)	0	14 (2.72)
		不全型	6,494 (100)	7 (0.11)	52 (0.80)	309 (4.76)	2 (0.03)	0	96 (1.48)
後遺症		総数	31,595 (100)	40 (0.13)	202 (0.64)	412 (1.30)	7 (0.02)	5 (0.02)	113 (0.36)
		性別	男	18,060 (100)	30 (0.17)	143 (0.79)	288 (1.59)	5 (0.03)	4 (0.02)
	女		13,535 (100)	10 (0.07)	59 (0.44)	124 (0.92)	2 (0.01)	1 (0.01)	51 (0.38)
	年齢別	2歳未満	14,572 (100)	12 (0.08)	100 (0.69)	235 (1.61)	5 (0.03)	2 (0.01)	37 (0.25)
		2歳以上	17,023 (100)	28 (0.16)	102 (0.60)	177 (1.04)	2 (0.01)	3 (0.02)	76 (0.45)
	診断別	定型例	24,575 (100)	28 (0.11)	151 (0.61)	289 (1.18)	6 (0.02)	4 (0.02)	83 (0.34)
		不定型例	515 (100)	7 (1.36)	15 (2.91)	45 (8.74)	0	0	2 (0.39)
		不全型	6,494 (100)	5 (0.08)	36 (0.55)	78 (1.20)	1 (0.02)	1 (0.02)	28 (0.43)

[表8]年齢別、初診時および初回免疫グロブリン(IG)投与開始時病日の分布

		総数(%)		2歳未満(%)		2歳以上(%)	
初診時病日*	総数	31,589	(100)	14,570	(100)	17,019	(100)
	第1病日	1,312	(4.2)	835	(5.7)	477	(2.8)
	第2病日	4,270	(13.5)	2,340	(16.1)	1,930	(11.3)
	第3病日	6,812	(21.6)	3,311	(22.7)	3,501	(20.6)
	第4病日	7,920	(25.1)	3,543	(24.3)	4,377	(25.7)
	第5病日	6,009	(19.0)	2,502	(17.2)	3,507	(20.6)
	第6病日	2,980	(9.4)	1,151	(7.9)	1,829	(10.7)
	第7病日	1,253	(4.0)	480	(3.3)	773	(4.5)
	第8病日	511	(1.6)	203	(1.4)	308	(1.8)
	第9病日	210	(0.7)	72	(0.5)	138	(0.8)
	第10病日以上	312	(1.0)	133	(0.9)	179	(1.1)
免疫グロブリン(IG)投与開始時病日**	総数	29,517	(100)	13,568	(100)	15,949	(100)
	第1病日	35	(0.1)	21	(0.2)	14	(0.1)
	第2病日	481	(1.6)	314	(2.3)	167	(1.0)
	第3病日	2,524	(8.6)	1,523	(11.2)	1,001	(6.3)
	第4病日	7,450	(25.2)	3,818	(28.1)	3,632	(22.8)
	第5病日	10,082	(34.2)	4,476	(33.0)	5,606	(35.1)
	第6病日	5,076	(17.2)	1,990	(14.7)	3,086	(19.3)
	第7病日	2,262	(7.7)	790	(5.8)	1,472	(9.2)
	第8病日	846	(2.9)	322	(2.4)	524	(3.3)
	第9病日	360	(1.2)	146	(1.1)	214	(1.3)
	第10病日以上	401	(1.4)	168	(1.2)	233	(1.5)

*初診時病日不明(入院中含む)6人を除く31,589人を集計した。

**初回免疫グロブリン(IG)使用例29,543人のうち1日投与量、投与日数、投与開始時病日不明26人を除く29,517人を集計した。

四捨五入の関係で百分率の合計は100%にならないことがある。

[表9]性別、年齢別、初回免疫グロブリン(IG)使用の割合

		総数(%)		免疫グロブリン(IG)使用なし(%)		免疫グロブリン(IG)使用あり(%)	
総数		31,595	(100)	2,052	(6.5)	29,543	(93.5)
性別	男	18,060	(100)	1,145	(6.3)	16,915	(93.7)
	女	13,535	(100)	907	(6.7)	12,628	(93.3)
年齢別	0-5か月	1,917	(100)	94	(4.9)	1,823	(95.1)
	6-11か月	4,497	(100)	326	(7.2)	4,171	(92.8)
	1歳	8,158	(100)	574	(7.0)	7,584	(93.0)
	2歳	5,675	(100)	306	(5.4)	5,369	(94.6)
	3歳	4,154	(100)	248	(6.0)	3,906	(94.0)
	4歳	2,897	(100)	165	(5.7)	2,732	(94.3)
	5歳	1,693	(100)	130	(7.7)	1,563	(92.3)
	6歳	1,013	(100)	67	(6.6)	946	(93.4)
	7歳	612	(100)	48	(7.8)	564	(92.2)
	8歳	368	(100)	35	(9.5)	333	(90.5)
	9歳	233	(100)	25	(10.7)	208	(89.3)
	10歳以上	378	(100)	34	(9.0)	344	(91.0)

四捨五入の関係で百分率の合計は100%にならないことがある。

[表10]性別、年齢別、初回免疫グロブリン(IG)使用ありの内訳

		免疫グロブリン(IG)使用あり(%)		免疫グロブリン(IG)使用あり(不応例でない)(%)		免疫グロブリン(IG)使用あり(不応例)(%)	
総数*		29,543	(100)	24,293	(82.2)	5,250	(17.8)
性別	男	16,915	(100)	13,747	(81.3)	3,168	(18.7)
	女	12,628	(100)	10,546	(83.5)	2,082	(16.5)
年齢別	0-5か月	1,823	(100)	1,484	(81.4)	339	(18.6)
	6-11か月	4,171	(100)	3,545	(85.0)	626	(15.0)
	1歳	7,584	(100)	6,373	(84.0)	1,211	(16.0)
	2歳	5,369	(100)	4,405	(82.0)	964	(18.0)
	3歳	3,906	(100)	3,140	(80.4)	766	(19.6)
	4歳	2,732	(100)	2,164	(79.2)	568	(20.8)
	5歳	1,563	(100)	1,272	(81.4)	291	(18.6)
	6歳	946	(100)	772	(81.6)	174	(18.4)
	7歳	564	(100)	447	(79.3)	117	(20.7)
	8歳	333	(100)	270	(81.1)	63	(18.9)
	9歳	208	(100)	157	(75.5)	51	(24.5)
	10歳以上	344	(100)	264	(76.7)	80	(23.3)

*初回免疫グロブリン(IG)使用例 29,543人を集計した。
四捨五入の関係で百分率の合計は100%にならないことがある。

[表11] 性別、年齢別、診断別、ステロイド併用の割合

		初回免疫グロブリン (IG)使用例 (%)		ステロイド併用あり (%)			パルス (%)			パルス以外 (%)		
総数*		29,543	(100)	3,853	(13.0)	[100]	567	(1.9)	[14.7]	3,338	(11.3)	[86.6]
性別	男	16,915	(100)	2,207	(13.0)	[100]	298	(1.8)	[13.5]	1,935	(11.4)	[87.7]
	女	12,628	(100)	1,646	(13.0)	[100]	269	(2.1)	[16.3]	1,403	(11.1)	[85.2]
年齢別	0-5か月	1,823	(100)	187	(10.3)	[100]	25	(1.4)	[13.4]	164	(9.0)	[87.7]
	6-11か月	4,171	(100)	469	(11.2)	[100]	61	(1.5)	[13.0]	412	(9.9)	[87.8]
	1歳	7,584	(100)	701	(9.2)	[100]	121	(1.6)	[17.3]	596	(7.9)	[85.0]
	2歳-4歳	12,007	(100)	1,823	(15.2)	[100]	264	(2.2)	[14.5]	1,576	(13.1)	[86.5]
	5歳-9歳	3,614	(100)	620	(17.2)	[100]	87	(2.4)	[14.0]	544	(15.1)	[87.7]
	10歳以上	344	(100)	53	(15.4)	[100]	9	(2.6)	[17.0]	46	(13.4)	[86.8]
診断別**	定型例	23,869	(100)	3,293	(13.8)	[100]	493	(2.1)	[15.0]	2,843	(11.9)	[86.3]
	不定型例	472	(100)	59	(12.5)	[100]	14	(3.0)	[23.7]	52	(11.0)	[88.1]
	不全型	5,196	(100)	501	(9.6)	[100]	60	(1.2)	[12.0]	443	(8.5)	[88.4]

* ()内は初回免疫グロブリン (IG) 使用例 29,543人を集計した。

**初回免疫グロブリン (IG) 使用例 29,543人のうち診断不明 6人は除いた。

* []内はステロイド併用あり 3,853人を集計した。1人の患者に両方用いている例があるため、横の合計は総数を超えることがある。両方なし(不明) 6人も総数に含まれている。

四捨五入の関係で百分率の合計は100%にならないことがある。

[表12] 性別、年齢別、初回免疫グロブリン (IG) 投与医療機関の内訳

		総数 (%)		報告施設で投与 (%)		前医で投与 (%)		その他・不明 (%)	
総数*		29,528	(100)	28,909	(97.9)	287	(1.0)	332	(1.1)
性別	男	16,908	(100)	16,539	(97.8)	185	(1.1)	184	(1.1)
	女	12,620	(100)	12,370	(98.0)	102	(0.8)	148	(1.2)
年齢別	0-5か月	1,822	(100)	1,767	(97.0)	25	(1.4)	30	(1.6)
	6-11か月	4,168	(100)	4,074	(97.7)	37	(0.9)	57	(1.4)
	1歳	7,581	(100)	7,455	(98.3)	58	(0.8)	68	(0.9)
	2歳	5,366	(100)	5,246	(97.8)	56	(1.0)	64	(1.2)
	3歳	3,903	(100)	3,824	(98.0)	44	(1.1)	35	(0.9)
	4歳	2,731	(100)	2,674	(97.9)	28	(1.0)	29	(1.1)
	5歳	1,562	(100)	1,541	(98.7)	7	(0.4)	14	(0.9)
	6歳	946	(100)	931	(98.4)	8	(0.8)	7	(0.7)
	7歳	564	(100)	546	(96.8)	5	(0.9)	13	(2.3)
	8歳	333	(100)	322	(96.7)	5	(1.5)	6	(1.8)
	9歳	208	(100)	199	(95.7)	6	(2.9)	3	(1.4)
10歳以上	344	(100)	330	(95.9)	8	(2.3)	6	(1.7)	

*初回免疫グロブリン (IG) 使用例 29,543人のうち1日投与量、投与日数不明 15人を除く 29,528人を集計した。

四捨五入の関係で百分率の合計は100%にならないことがある。

[表13]初回免疫グロブリン(IG)1日投与量(mg/kg)別、投与日数の分布

		総数および%		1日	2日	3日	4日以上
総数*		29,528 (100)	[100]	28,787 (97.49)	727 (2.46)	9 (0.03)	5 (0.02)
-299mg/kg		3	[0.01]	3	0	0	0
300-499mg/kg		8	[0.03]	0	2	1	5
500-699mg/kg		5	[0.02]	2	3	0	0
700-899mg/kg		14	[0.05]	6	8	0	0
900-1099mg/kg		1,015	[3.44]	446	568	1	0
1100-1299mg/kg		53	[0.18]	34	19	0	0
1300-1499mg/kg		15	[0.05]	13	2	0	0
1500-1699mg/kg		17	[0.06]	16	1	0	0
1700-1899mg/kg		196	[0.66]	196	0	0	0
1900-2099mg/kg		27,878	[94.41]	27,747	124	7	0
2100mg/kg+		324	[1.10]	324	0	0	0
再掲	200mg/kg	2	[0.01]	2	0	0	0
	400mg/kg	6	[0.02]	0	1	1	4
	1000mg/kg	936	[3.17]	421	514	1	0
	2000mg/kg	27,247	[92.28]	27,117	123	7	0
	その他	1,337	[4.53]	1,247	89	0	1

*初回免疫グロブリン(IG)使用例 29,543人のうち1日投与量、投与日数不明 15人を除く、29,528人を集計した。
()内は横向きのを示す。

[表14] 性別、年齢別、診断別、初回免疫グロブリン(IG)投与後の追加治療法

		総数 (%)	免疫グロブリン (IG)追加投与 (%)	ステロイド投与 (%)	infliximab投与 (%)	免疫抑制剤投与 (%)	血漿交換 (%)
総数*		29,543 (100)	5,799 (19.63)	2,036 (6.89)	415 (1.40)	371 (1.26)	137 (0.46)
性別	男	16,915 (100)	3,500 (20.69)	1,251 (7.40)	270 (1.60)	231 (1.37)	97 (0.57)
	女	12,628 (100)	2,299 (18.21)	785 (6.22)	145 (1.15)	140 (1.11)	40 (0.32)
年齢別	2歳未満	13,578 (100)	2,530 (18.63)	778 (5.73)	135 (0.99)	157 (1.16)	61 (0.45)
	2歳以上	15,965 (100)	3,269 (20.48)	1,258 (7.88)	280 (1.75)	214 (1.34)	76 (0.48)
診断別**	定型例	23,869 (100)	4,894 (20.50)	1,724 (7.22)	379 (1.59)	317 (1.33)	121 (0.51)
	不定型例	472 (100)	95 (20.13)	35 (7.42)	3 (0.64)	6 (1.27)	5 (1.06)
	不全型	5,196 (100)	810 (15.59)	277 (5.33)	33 (0.64)	48 (0.92)	11 (0.21)

*初回免疫グロブリン(IG)使用例 29,543人を集計した。

**初回免疫グロブリン(IG)使用例 29,543人のうち診断不明 6人は除いた。

1人の患者に複数の治療法を用いている例がある。

[表15] 性別、年齢別、診断別、初回免疫グロブリン(IG)投与後の追加治療法(初回(IG)不応例)

		総数 (%)	免疫グロブリン (IG)追加投与 (%)	ステロイド投与 (%)	infliximab投与 (%)	免疫抑制剤投与 (%)	血漿交換 (%)
総数*		5,250 (100)	4,754 (90.6)	1,518 (28.9)	384 (7.3)	284 (5.4)	129 (2.5)
性別	男	3,168 (100)	2,889 (91.2)	952 (30.1)	253 (8.0)	186 (5.9)	94 (3.0)
	女	2,082 (100)	1,865 (89.6)	566 (27.2)	131 (6.3)	98 (4.7)	35 (1.7)
年齢別	2歳未満	2,176 (100)	1,998 (91.8)	610 (28.0)	125 (5.7)	120 (5.5)	58 (2.7)
	2歳以上	3,074 (100)	2,756 (89.7)	908 (29.5)	259 (8.4)	164 (5.3)	71 (2.3)
診断別**	定型例	4,414 (100)	4,034 (91.4)	1,282 (29.0)	352 (8.0)	250 (5.7)	115 (2.6)
	不定型例	76 (100)	67 (88.2)	26 (34.2)	3 (3.9)	2 (2.6)	4 (5.3)
	不全型	758 (100)	653 (86.1)	210 (27.7)	29 (3.8)	32 (4.2)	10 (1.3)

*初回免疫グロブリン(IG)使用例 29,543人のうち不応例 5,250人を集計した。

**不応例 5,250人のうち診断不明 2人は除いた。

1人の患者に複数の治療法を用いている例があるので、横の合計は総数を超えることがある。

[表16]血小板数の初診時、最高値、最低値の分布

	総数	<20 (%)	20- (%)	30- (%)	40- (%)	50- (%)	60- (%)	70- (%)	80- (%)	90- (%)	100- (%)	不明 (%)
初診時	31,595 (100)	1,641 (5.19)	9,800 (31.02)	11,900 (37.66)	5,280 (16.71)	1,636 (5.18)	443 (1.40)	141 (0.45)	28 (0.09)	13 (0.04)	5 (0.02)	708 (2.24)
最高値	31,595 (100)	113 (0.36)	931 (2.95)	4,020 (12.72)	7,294 (23.09)	7,465 (23.63)	5,209 (16.49)	2,980 (9.43)	1,545 (4.89)	681 (2.16)	580 (1.84)	777 (2.46)
最低値	31,595 (100)	3,392 (10.74)	11,929 (37.76)	10,390 (32.88)	3,587 (11.35)	890 (2.82)	180 (0.57)	42 (0.13)	7 (0.02)	0 -	0 -	1,178 (3.73)

単位: 万/ μ L

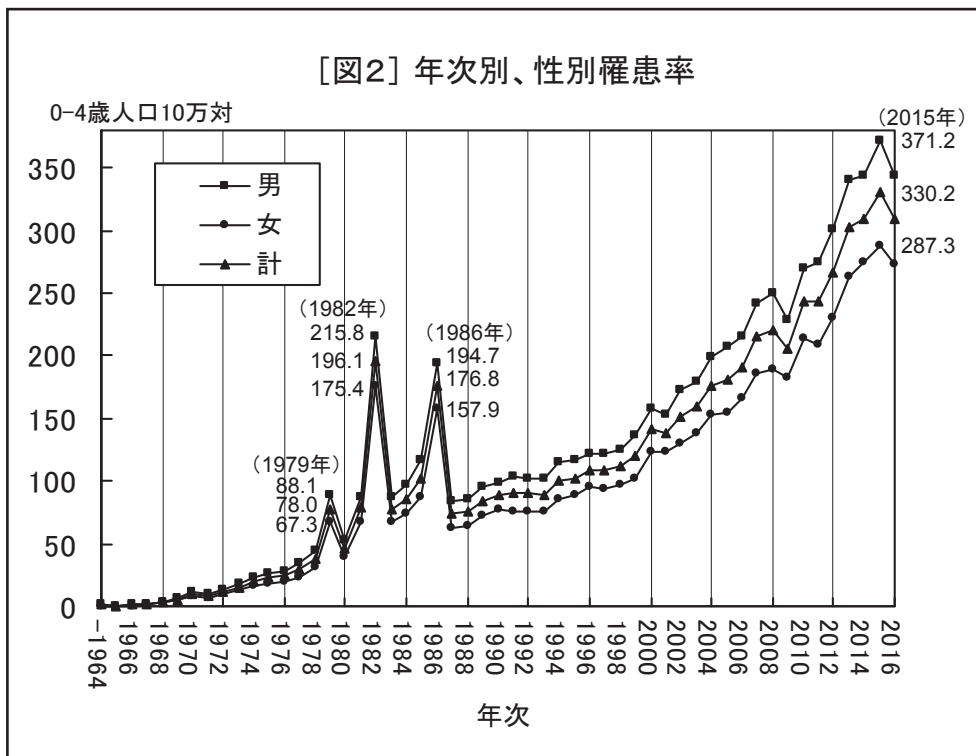
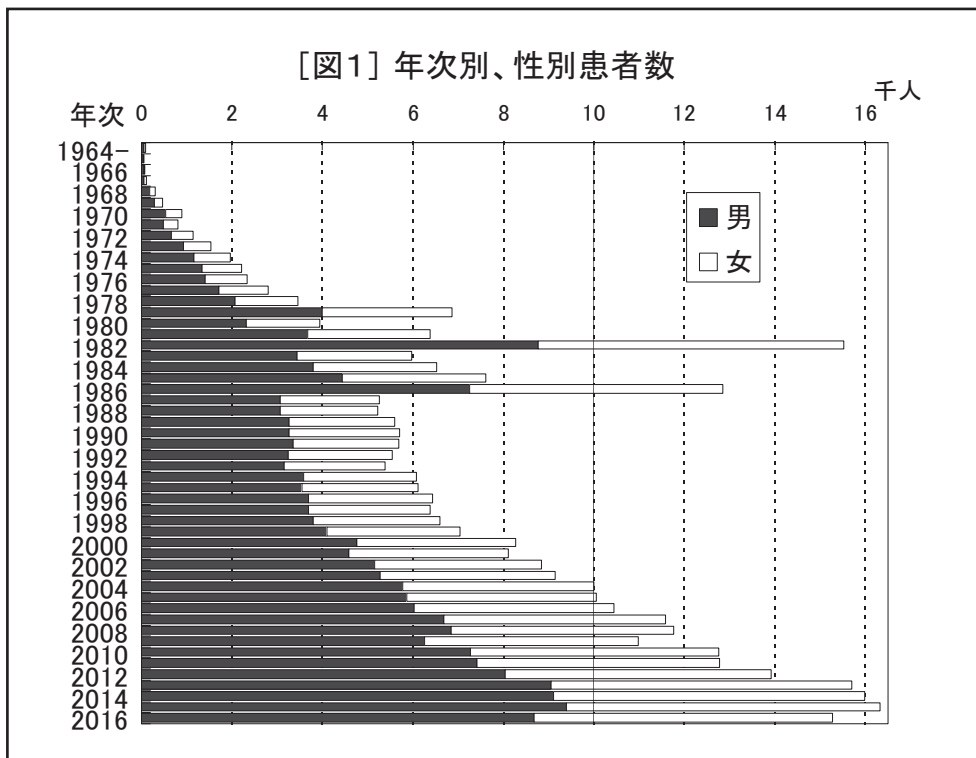
[表17]血小板数の最高値、最低値の病日

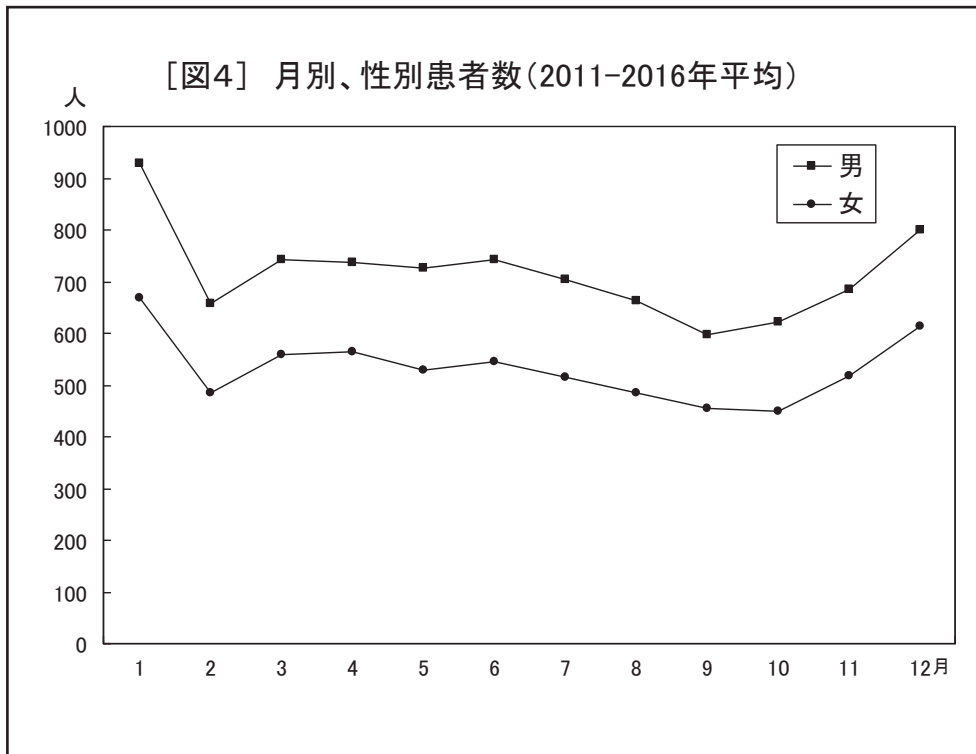
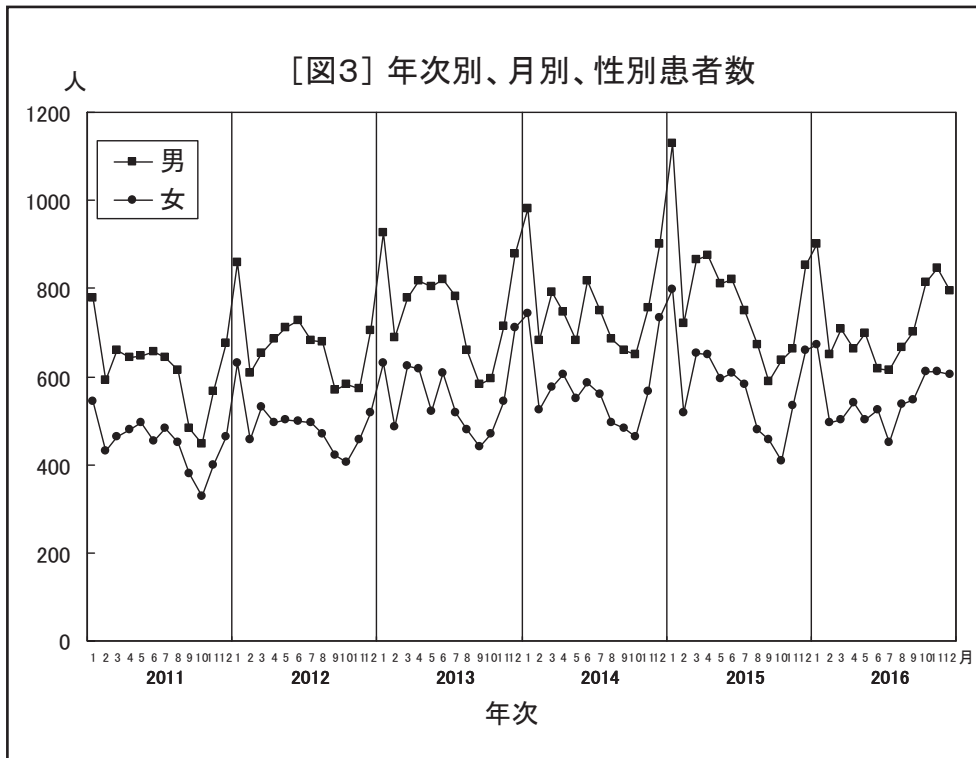
	総数	1-4日 (%)	5-9日 (%)	10-14日 (%)	15-19日 (%)	20日- (%)	不明 (%)
最高値	31,595 (100)	1,369 (4.33)	6,431 (20.35)	18,528 (58.64)	3,844 (12.17)	628 (1.99)	795 (2.52)
最低値	31,595 (100)	10,698 (33.86)	16,580 (52.48)	1,001 (3.17)	570 (1.80)	1,529 (4.84)	1,219 (3.86)

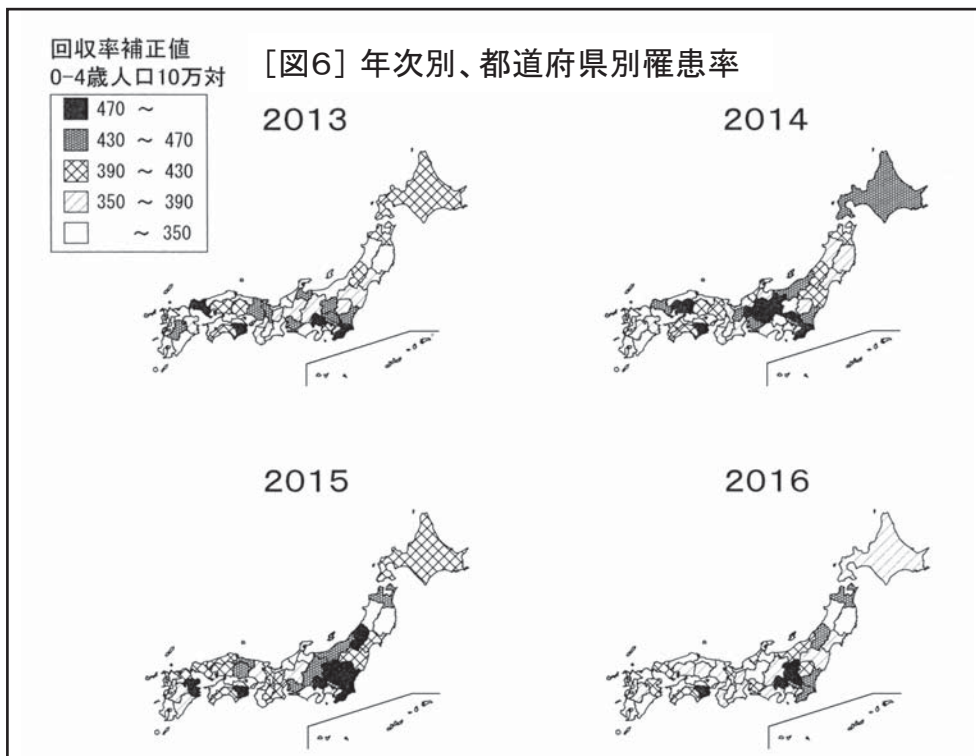
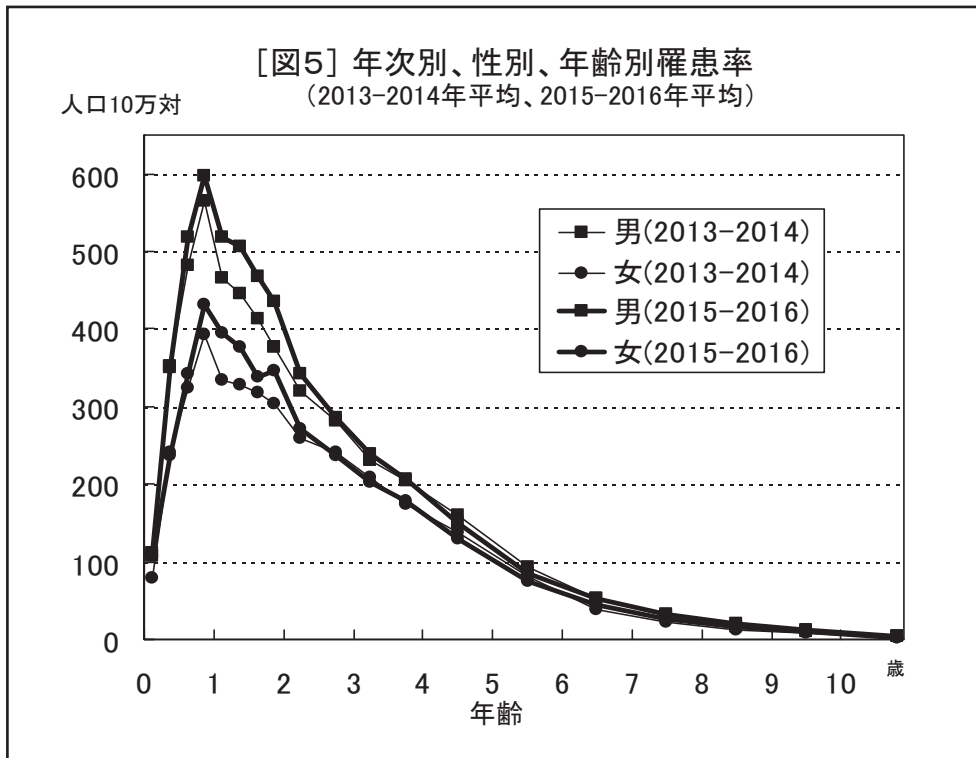
[表18]性別、年齢別、心障害の有無別、診断別、転院の割合

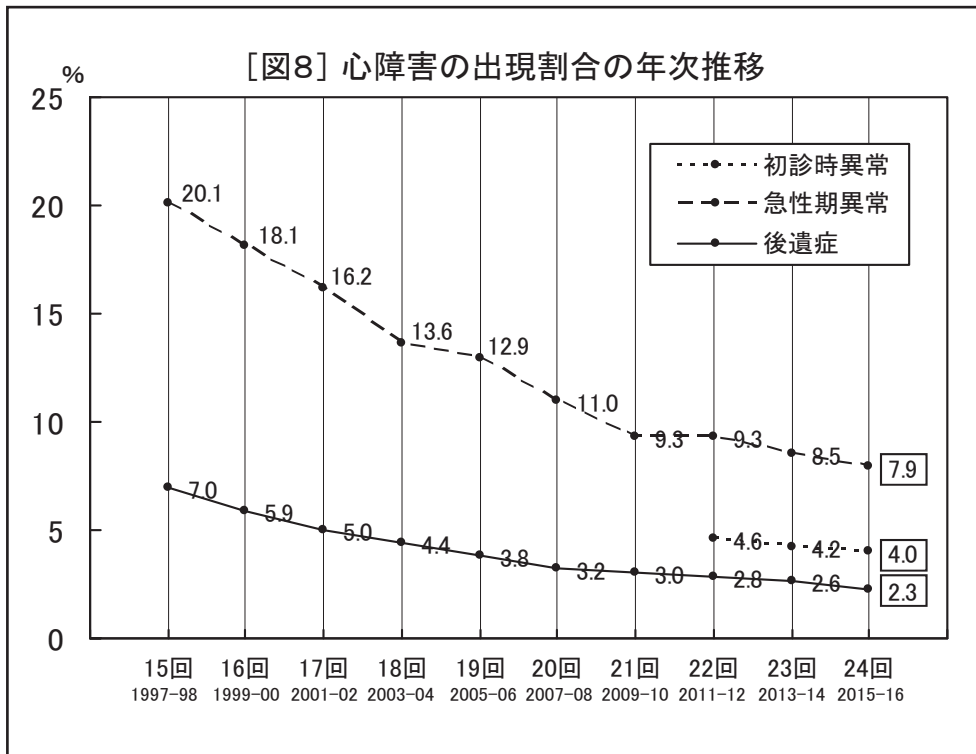
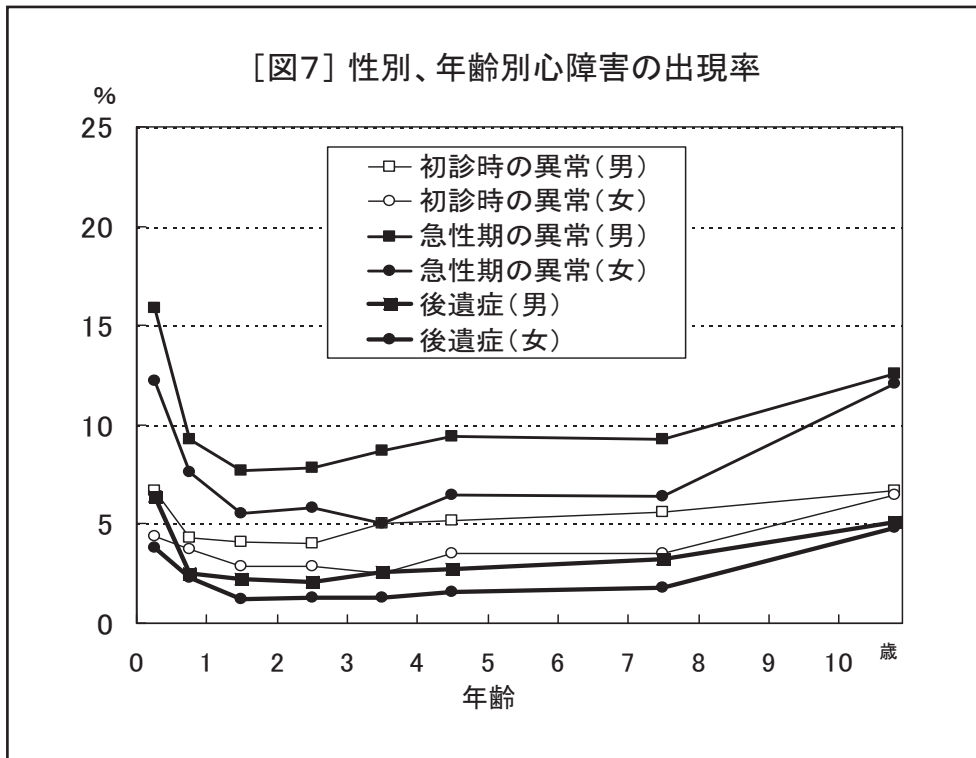
		総数(%)		転院あり(%)		
総数		31,595	(100)	1,350	(4.3)	
性別	男	18,060	(100)	794	(4.4)	
	女	13,535	(100)	556	(4.1)	
年齢別	0-5か月	1,917	(100)	111	(5.8)	
	6-11か月	4,497	(100)	195	(4.3)	
	1歳	8,158	(100)	299	(3.7)	
	2歳-4歳	12,726	(100)	547	(4.3)	
	5歳-9歳	3,919	(100)	175	(4.5)	
	10歳以上	378	(100)	23	(6.1)	
心障害	初診時の異常	あり	1,269	(100)	194	(15.3)
		なし	30,127	(100)	1,045	(3.5)
		不明	199	(100)	111	(55.8)
	急性期の異常	あり	2,491	(100)	312	(12.5)
		なし	28,844	(100)	822	(2.8)
		不明	260	(100)	216	(83.4)
	後遺症	あり	717	(100)	123	(17.2)
		なし	30,208	(100)	898	(3.0)
		不明	670	(100)	329	(49.1)
診断別*	定型例	24,575	(100)	1,068	(4.3)	
	不定型例	515	(100)	33	(6.4)	
	不全型	6,494	(100)	242	(3.7)	

*「診断の確実度」不明 11人は表から除いた。

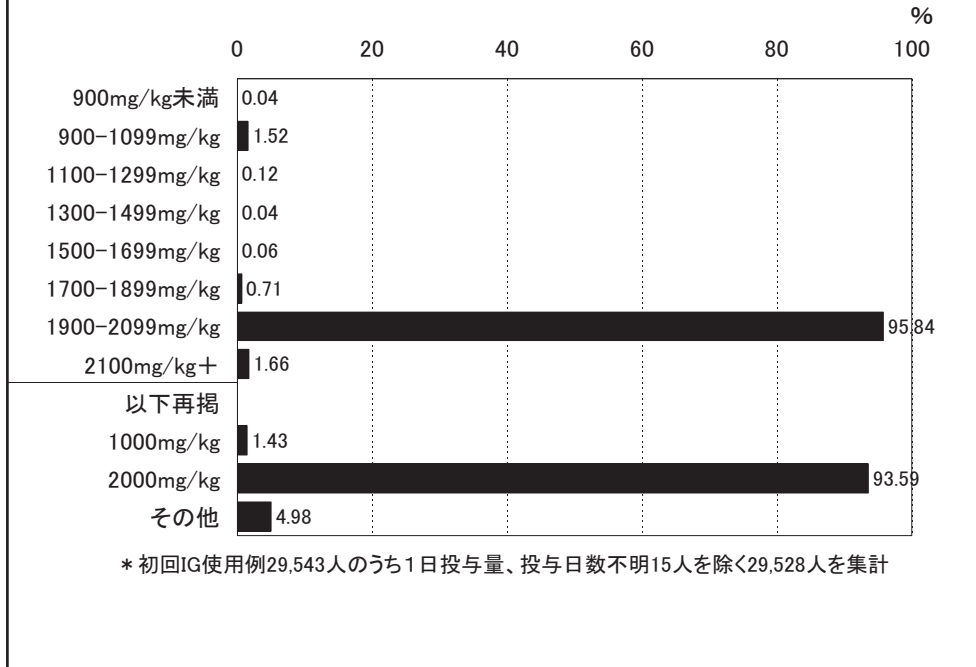








[図9] 初回免疫グロブリン(IG)使用総量の分布



第24回全国調査協力施設名（都道府県別、順不同）

1. 北海道

(医療法人) 北農会恵み野病院
JA 北海道厚生連旭川厚生病院
JA 北海道厚生連遠軽厚生病院
JA 北海道厚生連札幌厚生病院
JA 北海道厚生連帯広厚生病院
JA 北海道厚生連網走厚生病院
JCHO 札幌北辰病院
JCHO 北海道病院
JR 札幌病院
KKR 札幌医療センター
NTT 東日本札幌病院
あかびら市立病院
シロアムこどもクリニック
旭川赤十字病院
医療法人札幌会五輪橋マタニティクリニック
医療法人徳洲会札幌徳洲会病院
浦河赤十字病院
王子総合病院
岩見沢市立総合病院
共愛会病院
勤医協札幌病院
慶愛病院
公立芽室病院
江別市立病院
国立大学法人旭川医科大学医学部附属病院
国立大学法人北海道大学病院
砂川市立病院
札幌医科大学附属病院
市立旭川病院
市立札幌病院
市立三笠総合病院
市立千歳市民病院
市立稚内病院
市立函館病院
自衛隊札幌病院
社会医療法人恵和会恵庭第一病院
社会医療法人母恋日鋼記念病院
社会事業協会・岩内病院
社会事業協会・小樽病院
社会事業協会・帯広病院
社会事業協会・富良野病院
社会事業協会・余市病院
手稲溪仁会病院
小樽市立病院
清水赤十字病院
製鉄記念室蘭病院
静仁会静内病院
総合病院釧路赤十字病院
総合病院北見赤十字病院
滝川市立病院
町立松前病院
町立別海病院
道立旭川肢体不自由児総合療育センター
道立羽幌病院
独立行政法人国立病院機構旭川医療センター
苫小牧市立病院
函館五稜郭病院
豊岡中央病院
北海道社会事業協会・洞爺病院
北海道子ども総合医療・療育センター
北海道療育園
北光会 朝里中央病院
北斗病院小児科こども総合センター
北楡会札幌北楡病院
北翔会札幌あゆみの園
名寄市立総合病院
木古内町国民健康保険病院

2. 青森県

つがる西北五広域連合かなぎ病院

つがる西北五広域連合つがる総合病院
むつ総合病院
医療法人赤心会十和田東病院
公立七戸病院
公立野辺地病院
弘前市立病院
国民健康保険五戸総合病院
国立大学法人弘前大学医学部附属病院
市立三沢病院
十和田市立中央病院
青森県立中央病院
青森市民病院
青森市立浪岡病院
津軽保健生活協同組合健生病院
独立行政法人国立病院機構弘前病院
八戸市立市民病院
八戸赤十字病院

3. 岩手県

もりおかこども病院
岩手県立遠野病院
岩手県立釜石病院
岩手県立宮古病院
岩手県立高田病院(仮設診療所)
岩手県立山田病院
岩手県立大船渡病院
岩手県立胆沢病院
岩手県立中部病院
岩手県立二戸病院
岩手県立磐井病院
啓愛会美希病院
盛岡赤十字病院
盛岡友愛病院
川久保病院
東八幡平病院
北上済生会病院

4. 宮城県

(財) 宮城厚生協会 長町病院
(財) 宮城厚生協会坂総合病院
JCHO 仙台病院
J R 仙台病院
エコー療育園
スズキ記念病院
みやぎ県南中核病院
医療法人浄仁会大泉記念病院
塩釜市立病院
岩切病院
光ヶ丘スペルマン病院
公立刈田総合病院
国立病院機構仙台医療センター
自衛隊仙台病院
真壁病院
石巻赤十字病院
仙台市立病院
総合病院仙台赤十字病院
大崎市民病院
登米市民病院
登米市立米谷病院
東北公済病院
東北大学病院
東北労災病院
南三陸病院

5. 秋田県

J A 秋田厚生連 かづの厚生病院
佐藤病院
市立横手病院
市立大森病院
秋田県立医療療育センター
秋田厚生医療センター

秋田市立秋田総合病院
秋田赤十字病院
秋田大学医学部附属病院
大館市立総合病院
大曲厚生医療センター
男鹿みなと市民病院
地域医療機能推進機構秋田病院
中通総合病院
藤原記念病院
能代厚生医療センター
平鹿総合病院
北秋田市民病院
由利組合総合病院
雄勝中央病院

6. 山形県

(医療) 篠田好生会篠田総合病院
公立高島病院
公立置賜総合病院
済生会 山形済生病院
山形県立河北病院
山形県立新庄病院
山形県立中央病院
山形市立病院済生館
山形大学医学部附属病院
鶴岡協立病院
鶴岡市立荘内病院
独立行政法人国立病院機構山形病院
日本海総合病院
米沢市立病院

7. 福島県

(財) 常磐病院
(財) 星総合病院
(財) 大原総合病院
(財) 竹田総合病院
いわき市立総合磐城共立病院
医療生協わたり病院
一般財団法人太田総合病院附属太田西ノ内病院
県立南会津病院
公益財団法人湯浅報恩会寿泉堂総合病院
公立岩瀬病院
公立相馬総合病院
公立藤田総合病院
財団法人脳神経疾患研究所附属総合南東北病院
坂下厚生総合病院
新生会内科小児科佐藤病院
総合会津中央病院
総合病院福島赤十字病院
独立行政法人国立病院機構いわき病院
白河厚生総合病院
塙厚生病院
福島県総合療育センター
福島県立医科大学附属病院
福島整肢療護園

8. 茨城県

(医療) 愛宣会 ひたち医療センター
(医療) 厚友会 城西病院
(医療) 常仁会牛久愛和総合病院
(財) 筑波学園病院
龍ヶ崎済生会病院
JA とりで総合医療センター
きぬ師会病院
つくばセントラル病院
なめがた地域総合医療センター
威恵会三岳庄小松崎病院
医療法人社団光仁会総合守谷第一病院
医療法人清真会丹野病院
医療法人筑波記念病院
茨城愛心会 古河病院

茨城西南医療センター病院
株式会社日立製作所多賀総合病院
株式会社日立製作所日立総合病院
県西総合病院
県立こども病院
古河赤十字病院
高萩協同病院
国公共済連水府病院
財団法人筑波メディカルセンター病院
社会福祉法人愛正会 愛正会記念茨城福祉医療センター
城南病院
常陸大宮済生会病院
神栖済生会病院
石岡市医師会病院
石岡第一病院
総合病院土浦協同病院
筑波大学附属病院
特定医療法人社団 同樹会 結城病院
惇慈会日立港病院
日立製作所 ひたちなか総合病院
北茨城市民病院
友愛記念病院

9. 栃木県

JCHO うつのみや病院
あしかがの森 足利病院
とちぎリハビリテーションセンター
とちのき病院
医療法人社団友志会 野木病院
医療法人中山会 宇都宮記念病院
光南病院
黒須病院
佐野厚生総合病院
済生会 宇都宮病院
自治医科大学附属病院
上都賀総合病院
新小山市民病院
菅又病院
西方病院
足利赤十字病院
独立行政法人国立病院機構宇都宮病院
独立行政法人国立病院機構栃木医療センター
那須赤十字病院
南那須地区広域行政事務組合立那須南病院
芳賀赤十字病院
獨協医科大学病院小児科

10. 群馬県

伊勢崎佐波医師会病院
伊勢崎市民病院
碓氷病院
下仁田厚生病院
館林厚生病院
桐生厚生総合病院
群馬県立小児医療センター
群馬整肢療護園
群馬大学医学部附属病院
群馬中央病院
公立富岡総合病院
高崎中央病院
産科婦人科館出張佐藤病院
重症心身障害児施設はんなさわらび療育園
西吾妻福祉病院
前橋協立病院
前橋赤十字病院
藤岡総合病院
独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター
本島総合病院
利根中央病院

11. 埼玉県

(医社) 協友会 吉川中央総合病院
(医社) 協友会 八潮中央総合病院
(医社) 青葉会 新座病院

(医療) ヘブロン会大宮中央総合病院
(医療) 聖仁会 西部総合病院
(医療) 誠壽会 上福岡総合病院
(医療) 福寿会 メディカルトピア草加病院

JCHO 埼玉メディカルセンター
さいたま市民医療センター
さいたま市立病院
さいたま赤十字病院
ヘリオス会病院
愛友会 上尾中央総合病院
医療法人一心会伊奈病院
医療法人財団健和会みさと健和病院
医療法人社団協友会東川口病院
医療法人社団堀ノ内病院
医療法人壮幸会 行田総合病院
越谷市立病院
関本記念病院
熊谷生協病院
県立小児医療センター
戸田中央総合病院
国立身障者リハビリテーションセンター病院
埼玉医科大学総合医療センター小児科
埼玉医科大学病院
埼玉医療生活協同組合羽生総合病院
埼玉医療生活協同組合皆野病院
埼玉協同病院
埼玉県済生会栗橋病院
埼玉県済生会川口総合病院
埼玉厚生農協連熊谷総合病院
三愛会総合病院
至聖病院
自治医科大学附属さいたま医療センター
社会医療法人財団石心会埼玉石心会病院
春日部市立病院
深谷赤十字病院
川口市立医療センター
双鳳会 山王クリニック
草加市立病院
秩父市立病院
中田病院
朝霞台中央総合病院
土屋小児病院
東松山市立市民病院
独立行政法人国立病院機構埼玉病院
独立行政法人国立病院機構西埼玉中央病院
飯能中央病院
防衛医科大学校病院
北里大学メディカルセンター
本庄総合病院
明理会 イムス富士見総合病院
蕨市立病院
獨協医科大学越谷病院

12. 千葉県

(医財) 明理会新松戸中央総合病院
(医社) 愛友会 千葉愛友会記念病院
(医社) 協友会 船橋総合病院
(医社) 協友会 柏厚生総合病院
(医社) 勤労者医協船橋二和病院
(医社) 上総会 山之内病院
(医社) 翠明会 山王病院
(医社) 千葉健生病院
(医法) 成春会北習志野花輪病院
(医療) 公明会 塩田病院
(医療) 聖峰会 岡田病院
(医療) 鉄蕉会 亀田総合病院

JCHO 千葉病院
キッコーマン総合病院
セコメディック病院
医療法人 鎗田病院
医療法人 芙蓉会 五井病院
医療法人三矢会八街総合病院
医療法人社団圭春会小張総合病院
医療法人社団聖仁会白井聖仁会病院
医療法人社団誠馨会千葉メディカルセンター

医療法人社団保健会谷津保健病院
加藤病院
蛍水会 名戸ヶ谷あびこ病院
高根病院
国保松戸市立病院
国保多古中央病院
国保直営総合病院君津中央病院
重光会 君津山の手病院
順天堂大学医学部附属順天堂浦安病院
成田赤十字病院
聖隷佐倉市民病院
千葉県こども病院
千葉県済生会習志野病院
千葉県循環器病センター
千葉県千葉リハビリテーションセンター
千葉県立佐原病院
千葉市立海浜病院
千葉市立青葉病院
千葉西総合病院
千葉大学医学部附属病院
船橋市立医療センター
総合医療センター成田病院
総合病院国保旭中央病院
地方独立行政法人 東金九十九里地域医療センター 東千葉メディカルセンター
帝京大学ちば総合医療センター
東葛病院
東京ベイ・浦安市川医療センター
東京歯科大学市川総合病院
東京慈恵会医科大学附属柏病院
東京女子医科大学附属八千代医療センター
東邦大学医療センター佐倉病院
独立行政法人国立病院機構下志津病院
独立行政法人国立病院機構千葉医療センター
独立行政法人国立病院機構千葉東病院
日本医科大学千葉北総病院
木下会 鎌ヶ谷総合病院

13. 東京都

(医財) 河北総合病院
(医財) 健康文化会 小豆沢病院
(医社) 関川病院
(医社) 江東病院
(医社) 水野クリニック
(医社) 誠志会 誠志会病院
(社) 至誠会第二病院
(社福) 勝楽堂病院
(社福) 聖ヨハネ会桜町病院
(社福) 聖母会 聖母病院
(社福) 鶴風会東京小児療育病院
(社福) 東京都同胞援護会昭島病院
(社福) 日本心身障害者協会島田療育センター
J R 東京総合病院
NTT 東日本関東病院
まつしま産婦人科小児科病院
阿伎留医療センター
杏林大学医学部付属病院
医療法人 沖縄徳洲会 武蔵野徳洲会病院
医療法人社団衛生会立川相互病院
医療法人社団大坪会東和病院
医療法人社団日心会総合病院一心病院
稲城市立病院
永寿総合病院
永生会 南多摩病院
荻窪病院
葛飾赤十字産院
久我山病院
慶應義塾大学病院
虎の門病院
公益財団法人 日本心臓血圧研究振興会附属
榊原記念病院
公立学校共済組合 関東中央病院
公立昭和病院
公立福生病院
厚生中央病院

国家公務員共済組合連合会立川病院
国立研究開発法人国立国際医療研究センター病院
国立成育医療研究センター
国立精神神経医療研究センター病院
財団法人東京都保健医療公社多摩南部地域病院
三井記念病院
三楽病院
自衛隊中央病院
秋津療育園
順天堂大学医学部附属練馬病院
順天堂大学附属順天堂医院
昭和大学江東豊洲病院
昭和大学病院
正志会 東京リバーサイド病院
正志会 南町田病院
聖路加国際病院
青梅市立総合病院
浅草寺病院
総合病院三宿病院
総合病院大森赤十字病院
多摩北部医療センター
大和会 武蔵村山病院
池上総合病院
中林病院
町田市民病院
帝京大学医学部附属病院
都立荏原病院
都立駒込病院
都立東大和療育センター
都立府中療育センター
都立北療育医療センター
都立墨東病院
東京医科歯科大学病院
東京医科大学八王子医療センター
東京医科大学病院
東京医療生協組合 中野総合病院
東京衛生病院
東京蒲田医療センター
東京警察病院
東京慈恵会医科大学 葛飾医療センター
東京慈恵会医科大学附属病院
東京慈恵会医科大学附属病院第3病院
東京女子医科大学東医療センター
東京女子医科大学病院
東京新宿メディカルセンター
東京通信病院
東京都済生会中央病院
東京都立小児総合医療センター
東京都立大塚病院
東京北医療センター
東京臨海病院
東京労災病院
東芝病院
東都文京病院
東邦大学 大森病院
東邦大学医療センター大橋病院
同愛記念病院
独立行政法人国立病院機構災害医療センター
小児科
独立行政法人国立病院機構東京医療センター
小児科
日本医科大学 多摩永山病院
日本医科大学病院
日本赤十字社医療センター
日本大学医学部附属板橋病院
日本大学病院
日野市立病院
博慈会記念総合病院
武蔵野赤十字病院
母子愛育会総合母子保健センター愛育病院
北里研究所病院
立正佼成会 附属佼成病院
緑成会病院
緑風荘病院
練馬光が丘病院

練馬総合病院

14. 神奈川県

(医社) JMA 海老名総合病院
(医社) 愛友会 金沢文庫病院
(医社) 青葉会 牧野記念病院
(医社) 亮正会総合高津中央病院
(医療) 愛仁会 太田総合病院
(医療) 徳洲会 大和徳洲会病院
(医療) 柏堤会 戸塚共立第2病院
(財) 神奈川県警友会けいゆう病院
(社福) 湘南福祉協会総合病院湘南病院
(社福) 日本医療伝道会総合病院衣笠病院
JCHO 横浜保土ヶ谷中央病院
よこすか浦賀病院
伊勢原協同病院
医療法人 徳洲会 茅ヶ崎徳洲会病院
医療法人産育会堀病院
医療法人社団 葵会 AOI 国際病院
医療法人社団緑成会横浜総合病院
横須賀共済病院
横須賀市立うわまち病院
横須賀市立市民病院
横浜栄共済病院
横浜市立みさと赤十字病院
横浜市立市民病院
横浜市立大学附属病院
鴨居病院
茅ヶ崎市立病院
関東労災病院
京浜総合病院
厚木市立病院
康心会湘南東部総合病院
国公共済連 虎の門病院分院
国公共済連横浜南共済病院
国公共済連総合病院平塚共済病院
国際親善総合病院
済生会 横浜市南部病院
済生会横浜市東部病院こどもセンター
桜ヶ丘中央病院小児科
三浦市立病院
三成会 新百合ヶ丘総合病院
自衛隊横須賀病院
重症心身障害児(者)施設横浜療育医療センター
小田原市立病院
昭和大学 藤が丘病院
昭和大学横浜市北部病院こどもセンター
湘南鎌倉総合病院
湘南藤沢徳洲会病院
新横浜母と子の病院
神奈川県立こども医療センター
神奈川県立汐見台病院
神奈川県立足柄上病院
聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院
聖マリアンナ医科大学病院
聖隷横浜病院
川崎医療生協 川崎協同病院
川崎市立川崎病院
川崎市立多摩病院
相模原協同病院
相模台病院
総合川崎臨港病院
総合相模更生病院
総合病院秦野赤十字病院
大口東総合病院
帝京大学 溝口病院
東海大学医学部附属病院
東海大学医学部附属大磯病院
藤沢市民病院
独立行政法人国立病院機構横浜医療センター
独立行政法人国立病院機構神奈川病院
独立行政法人国立病院機構相模原病院
独立行政法人労働者健康福祉機構横浜労災病院
日本医科大学 武蔵小杉病院
淵野辺総合病院

平塚市民病院
北里大学病院
鈴木病院

15. 新潟県

(医療) 立川総合病院
けいなん病院
亀田第一病院
魚沼病院
共生会中条中央病院
佐渡市立両津病院
佐渡総合病院
済生会 三条病院
済生会新潟第二病院
糸魚川総合病院
社会医療法人新潟勤労者医療協会 下越病院
小千谷総合病院
上越総合病院
新潟県はまぐみ小児療育センター
新潟県立ガンセンター新潟病院
新潟県立吉田病院
新潟県立坂町病院
新潟県立十日町病院
新潟県立新発田病院
新潟県立中央病院
新潟市民病院
新潟大学医歯学総合病院
新潟南病院
新潟白根総合病院
総合病院長岡赤十字病院
町立津南病院
長岡中央総合病院
独立行政法人国立病院機構新潟病院
南部郷総合病院
柏崎総合医療センター
木戸病院

16. 富山県

JCHO 高岡ふしき病院
あさひ総合病院
かみいち総合病院
金沢医科大学水見市民病院
公立南砺中央病院
厚生連滑川病院
厚生連高岡病院
高岡市民病院
射水市民病院
独立行政法人国立病院機構富山病院
南砺市民病院
八尾総合病院
富山県済生会 富山病院
富山県立中央病院
富山市立富山市民病院
富山大学附属病院

17. 石川県

JCHO 金沢病院
医療法人社団和楽仁辰口芳珠記念病院
加賀市医療センター
金沢医科大学病院
金沢市立病院
金沢聖霊総合病院
金沢西病院
金沢赤十字病院
金沢大学附属病院
恵寿総合病院
公立宇出津総合病院
公立穴水総合病院
公立松任石川中央病院
公立能登総合病院
荒木病院
国保小松市民病院
山中温泉ぬくもり診療所
市立輪島病院
珠洲市総合病院

石川県立中央病院
浅ノ川総合病院
町立富来病院
独立行政法人国立病院機構金沢医療センター
独立行政法人国立病院機構七尾病院
独立行政法人国立病院機構石川病院
能美市立病院

18. 福井県

(医療) 福井愛育病院
レイクヒルズ美方病院
岩井病院
公立小浜病院
公立丹南病院
坂井市立三国病院
市立敦賀病院
新田塚医療福祉センター福井総合クリニック
大滝病院
独立行政法人国立病院機構あわら病院
独立行政法人国立病院機構敦賀医療センター
福井県こども療育センター
福井県立病院
福井社会保険病院
福井心臓血管センター福井循環器病院
福井赤十字病院
福井大学医学部附属病院

19. 山梨県

塩山市民病院
峡南医療センター富士川病院
康麗会 笛吹中央病院
甲府共立病院
山梨県立あけぼの医療福祉センター
山梨県立中央病院
山梨厚生病院小児科
山梨赤十字病院
山梨大学医学部附属病院
市立甲府病院
上野原市立病院
都留市立病院
独立行政法人国立病院機構甲府病院
北杜市立甲陽病院

20. 長野県

(医療) 慈泉会 相澤病院
JA長野厚生連 北信総合病院
安曇野赤十字病院
伊那中央病院
医療法人新生病院
軽井沢町国民健康保険軽井沢病院
健和会病院
県立こども病院
元山会中村病院
御代田中央記念病院
国保依田窪病院
国立病院機構まつもと医療センター中信松本病院
佐久市立国保浅間総合病院
市立岡谷病院
市立大町総合病院
社会医療法人南信勤労者医療協会諏訪共立病院
昭和伊南総合病院
松本協立病院
松本市立病院
上伊那医療生活協同組合 上伊那生協病院
城西病院
信越病院
信州大学医学部附属病院
信濃医療福祉センター
諏訪赤十字病院
諏訪中央病院
中信勤労者医療協会塩尻協立病院
町立辰野病院
長野県厚生農業協同組合連合会佐久総合病院

佐久医療センター
長野県厚生農業組合連合会篠ノ井総合病院
長野県厚生農業組合連合会富士見高原病院
長野県厚生連長野松代総合病院
長野県立阿南病院
長野県立須坂病院
長野県立木曾病院
長野厚生農協連 新町病院
長野市民病院
長野赤十字病院
独立行政法人国立病院機構信州上田医療センター
独立行政法人国立病院機構東長野病院
飯山赤十字病院
飯田市立病院

21. 岐阜県

(医社) 誠広会 平野総合病院
JA岐阜厚生連 中濃厚生病院
JA岐阜厚生連 東濃厚生病院
みどり病院
医療法人社団友愛会岩砂病院・岩砂マタニティ
医療法人藤掛病院
医療法人白水会白川病院
羽島市民病院
下呂市立金山病院
河村病院
岐阜県厚生農協連 揖斐厚生病院
岐阜県厚生農協連 西美濃厚生病院
岐阜県厚生農業協同組合連合会岐北厚生病院
岐阜県厚生連久美愛病院
岐阜県総合医療センター
岐阜県立下呂温泉病院
岐阜県立多治見病院
岐阜市民病院
岐阜大学医学部附属病院
公立学校共済組合 東海中央病院
高山赤十字病院
国保坂下病院
国保飛騨市民病院
市立恵那病院
松波総合病院
総合病院中津川市民病院
多治見市民病院
大垣市民病院
土岐市立総合病院
独立行政法人地域医療機能推進機構 可児と
うのう病院
美濃市立美濃病院

22. 静岡県

JA静岡厚生連 遠州病院
JA静岡厚生連 静岡厚生病院
伊東市民病院
伊豆赤十字病院
下田メディカルセンター
菊川市立総合病院
共立蒲原総合病院
甲賀病院
国立病院機構静岡医療センター
市立湖西病院
市立御前崎総合病院
市立島田市民病院
順天堂大学医学部附属静岡病院
沼津市立病院
聖隷三方原病院
静岡県立こども病院
静岡県立静岡がんセンター
静岡県立総合病院
静岡済生会総合病院
静岡市立清水病院
静岡市立静岡病院
静岡赤十字病院
静岡徳洲会病院
中東遠総合医療センター
藤枝市立総合病院

独立行政法人国立病院機構 静岡てんかん・
神経医療センター
独立行政法人国立病院機構天竜病院
熱海所記念病院
磐田市立総合病院
浜松医科大学附属病院小児科
浜松医療センター
浜松赤十字病院
浜松労災病院
富士宮市立病院
富士市立中央病院
芙蓉協会 聖隷沼津病院

23. 愛知県

(医療) 済衆館済衆館病院
(医療) 志聖会 総合犬山中央病院
(医療) 宝美会 総合青山病院
JA愛知厚生連 江南厚生病院
JA愛知厚生連 安城更生病院
JA愛知厚生連 稲沢厚生病院
JA愛知厚生連 海南病院
JA愛知厚生連 知多厚生病院
JA愛知厚生連 豊田厚生病院
JCHO 中京病院
NTT西日本東海病院
あいち小児保健医療総合センター
あま市民病院
トヨタ記念病院
みよし市民病院
愛知医科大学病院
愛知県三河青い鳥医療療育センター
愛知県心身障害者コロニー中央病院
愛知県青い鳥医療福祉センター
旭労災病院
医療法人財団新和会八千代病院
医療法人青山病院
医療法人徳洲会名古屋徳洲会総合病院
一宮市立市民病院
一宮西病院
岡崎市民病院
蒲郡市民病院
刈谷豊田総合病院
公立陶生病院
国立病院機構豊橋医療センター
国立病院機構名古屋医療センター
三菱名古屋病院
秋田病院
春日井市民病院
小牧市民病院
常滑市民病院
成田記念病院
清慈会 鈴木病院
聖霊病院
西知多医療厚生組合 公立西知多総合病院
西尾市民病院
総合大雄会病院
大同病院
中部労災病院
津島市民病院
藤田保健衛生大学坂文種報徳会病院
藤田保健衛生大学病院
南生協病院
半田市立半田病院
尾張健友会 千秋病院
碧南市民病院
豊橋市民病院
豊川市民病院
豊田地域医療センター
名古屋記念病院
名古屋市立西部医療センター
名古屋市立大学病院
名古屋西病院
名古屋大学病院
名古屋第一赤十字病院
名古屋第二赤十字病院

名古屋通信病院
名古屋掖済会病院
名鉄病院
名南病院

24. 三重県

J A 三重県厚生連 鈴鹿中央総合病院
JCHO 四日市羽津医療センター
ヨナハ産婦人科・小児科病院
伊勢慶友病院
伊勢赤十字病院
岡波総合病院
紀南病院
桑名東医療センター
国立病院機構三重中央医療センター
国立病院機構三重病院
済生会明和病院
三重県立総合医療センター
三重大学医学部附属病院
市立四日市病院
独立行政法人国立病院機構鈴鹿病院
尾鷲総合病院
名張市立病院

25. 滋賀県

(医療) 彦根中央病院
(財) 豊郷病院
医療法人 マキノ病院
近江草津徳洲会病院
近江八幡市立総合医療センター
昂会湖東記念病院
高島市民病院
済生会滋賀県病院
市長浜病院
滋賀医科大学病院
滋賀県立小児保健医療センター
守山市民病院
誠光会草津総合病院
大津市民病院 小児循環器科
大津赤十字志賀病院
大津赤十字病院
地域医療機能推進機構滋賀病院
長浜市立湖北病院
長浜赤十字病院
東近江市蒲生医療センター
東近江市立能登川病院
独立行政法人国立病院機構紫香楽病院
彦根市立病院
野洲病院

26. 京都府

(医療) 医仁会 武田総合病院
(医療) 啓信会 京都きつ川病院
(医療) 福富士会 京都ルネス病院
クリニックほりかわ
綾部市立病院
医療法人和松会六地藏総合病院
宇治徳洲会病院
宇治武田病院
学研都市病院
亀岡市立病院
京丹後市立久美浜病院
京丹後市立弥栄病院
京都鞍馬口医療センター
京都医療センター
京都協立病院
京都山城総合医療センター
京都市桃陽病院
京都市立病院
京都社会事業財団 京都桂病院
京都大学医学部附属病院小児科
京都第一赤十字病院
京都第二赤十字病院
京都通信病院
京都府立医科大学小児疾患研究施設内科部門

京都府立医科大学付属北部医療センター
金井病院
公立南丹病院
済生会 京都府病院
三菱京都病院
市立福知山市民病院
社団法人京都保健会京都民医連中央病院
聖ヨゼフ医療福祉センター
石鎚会田辺中央病院
総合病院 日本パプテスト病院
足立病院
独立行政法人国立病院機構宇多野病院
独立行政法人国立病院機構舞鶴医療センター
美杉会男山病院
府立舞鶴こども療育センター
舞鶴赤十字病院
洛和会 音羽病院

27. 大阪府

(財) 西淀病院
JCHO 星ヶ丘医療センター
うえだ下田部病院
コープおおさか病院
なにわ生野病院
りんくう総合医療センター
愛賛会浜田病院
愛仁会 高槻病院
愛仁会 千船病院
医療法人第一東和会病院
河内友誼会 河内総合病院
関西メディカル病院
関西医科大学香里病院
関西医科大学総合医療センター
関西医科大学附属病院
岸和田徳洲会病院
協仁会 小松病院
近畿大学医学部堺病院
近畿大学医学部附属病院
恵生会病院
高槻赤十字病院
国立循環器病研究センター
済生会 中津病院
済生会野江病院
阪南市民病院
堺市立総合医療センター
市立ひらかた病院
市立貝塚病院
市立岸和田市民病院
市立吹田市民病院
市立池田病院
市立柏原病院
市立豊中病院
寺西報恩会 長吉総合病院
社会医療法人きっこう会 多根総合病院
若弘会若草第一病院
守口生野記念病院
住友病院
彰療会 大正病院
松下記念病院
松原徳洲会病院
信愛会 交野病院
真美会 中野こども病院
吹田徳洲会病院
清恵会病院
生長会 ベルランド総合病院
聖バルナバ病院
石井記念愛染園付属愛染橋病院
仙養会 北摂総合病院
泉大津市立病院
大阪みなと中央病院
大阪医科大学病院
大阪暁明館病院
大阪市立住吉市民病院
大阪市立十三市民病院
大阪市立総合医療センター小児救急科

大阪市立大学医学部付属病院
大阪赤十字病院
大阪大学医学部附属病院
大阪府警察協会大阪警察病院
大阪府済生会 茨木病院
大阪府済生会 吹田病院
大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター
大阪労災病院
大阪掖済会病院
地方独立行政法人 市立東大阪医療センター
田附興風会 北野病院
東和病院
同仁会 耳原総合病院
同友会 共和病院
徳洲会 八尾徳洲会総合病院
独立行政法人国立病院機構大阪医療センター
独立行政法人国立病院機構大阪南医療センター
独立行政法人地域医療機能推進機構大阪病院
暖生会脳神経外科病院
日本生命済生会付属日生病院
八尾市立病院
宝生会 PL病院
枚方公済病院
箕面市立病院
孟仁会 摂南総合病院
淀川キリスト教病院
和泉市立病院

28. 兵庫県

(医療) 尚和会 宝塚第一病院
(医療) 明和病院
(医療晋真会) ベリタス病院
JCHO 神戸中央病院
医療法人社団 栄宏会 栄宏会小野病院
医療法人社団まほし会真星病院
医療法人社団純心会 パルモア病院
医療法人伯鳳会 赤穂中央病院
加古川中央市民病院
加東市民病院
関西労災病院
公学共済 近畿中央病院
公立香住病院
公立宍粟総合病院
公立神崎総合病院
公立豊岡病院
甲南病院
済生会 兵庫県病院
三田市民病院
市立芦屋病院
市立伊丹病院
市立西脇病院
市立川西病院
自衛隊 阪神病院
汐咲会 井野病院
樹徳会上ヶ原病院
神戸アドベンチスト病院
神戸市立医療センター西市民病院
神戸市立医療センター中央市民病院
神戸赤十字病院
神戸大学病院
神戸掖済会病院
西宮すなご医療福祉センター
西宮回生病院
西宮市立中央病院
西神戸医療センター
赤穂市民病院
総合病院 姫路聖マリア病院
第二協立病院
淡路平成会東浦平成病院
適寿リハビリテーション病院
東神戸病院
独立行政法人国立病院機構神戸医療センター
尼崎医療生協病院
姫路赤十字病院
兵庫医科大学ささやま医療センター

兵庫医科大学病院
兵庫県立こども病院
兵庫県立西宮病院
兵庫県立柏原病院
北播磨総合医療センター
明石医療センター
明石市立市民病院
六甲アイランド甲南病院

29. 奈良県

宇陀市立病院
近畿大学医学部奈良病院
国保中央病院
済生会 中和病院
済生会 奈良病院
阪奈中央病院
市立奈良病院
清心会 桜井病院
大和高田市立病院
地域医療機能推進機構大和郡山病院
天理よろづ相談所病院
土庫病院
独立行政法人国立病院機構奈良医療センター
奈良県西和医療センター
奈良県総合リハビリテーションセンター
奈良県立医科大学病院
奈良県立総合医療センター
奈良友誼会病院
南奈良総合医療センター

30. 和歌山県

くしもと町立病院
医療法人青松会河西田村病院
海南医療センター
橋本市民病院
公立那賀病院
国保日高総合病院
社会保険紀南病院
新宮市立医療センター
独立行政法人国立病院機構南和歌山医療センター
那智勝浦町立温泉病院
日本赤十字社和歌山医療センター
白浜はまゆう病院
北出病院
有田市立病院
労働福祉事業団 和歌山ろうさい病院
和歌浦中央病院
和歌山県立医科大学病院
和歌山県立医科大学病院紀北分院
和歌山生協病院

31. 鳥取県

岩美町国保岩美病院
県立総合療育センター
国保智頭病院
山陰労災病院
鳥取県済生会 境港総合病院
鳥取県立厚生病院
鳥取県立中央病院
鳥取大学病院
独立行政法人国立病院機構鳥取医療センター
独立行政法人国立病院機構米子医療センター
南部町国民健康保険西伯病院
日野病院
博愛病院

32. 島根県

安来市立病院
雲南市立病院
益田赤十字病院
公立邑智病院
済生会 江津総合病院
出雲市立総合医療センター
松江記念病院
松江市立病院

松江生協病院
松江赤十字病院
西部島根医療福祉センター
町立奥出雲病院
津和野共存病院
島根県立中央病院
島根大学医学部附属病院
東部島根医療福祉センター
独立行政法人国立病院機構浜田医療センター

33. 岡山県

公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構倉敷中央病院
(医)水と和会 水島中央病院
(財)弘仁会 玉島病院
ペリネイト母と子の病院
旭川荘療育・医療センター
医療法人医誠会 児島中央病院
岡山済生会総合病院
岡山市立市民病院
岡山赤十字病院
岡山大学病院
岡山労災病院
笠岡市立市民病院
笠岡第一病院
笠岡中央病院
国立病院機構岡山医療センター
市立井原市民病院
重井医学研究所附属病院
新見中央病院
瀬戸内市民病院
成羽病院
川崎医科大学総合医療センター
川崎医科大学附属病院
倉敷市立児島市民病院
倉敷成人病センター
倉敷北病院
総合病院 水島協同病院
総合病院玉野市立玉野市民病院
津山中央病院
同仁会 金光病院
独立行政法人国立病院機構南岡山医療センター

34. 広島県

J A 広島厚生連 広島総合病院
あかね会 土谷総合病院
うすい会 高陽ニュータウン病院
マツダ株式会社 マツダ病院
医療法人 JR 広島病院
医療法人社団沼南会 沼隈病院
県立安芸津病院
県立広島病院
県立障害者リハビリテーションセンター医療センター
呉医療センター
広島医療生協広島共立病院
広島記念病院
広島厚生連農協 尾道総合病院
広島市医師会運営安芸市民病院
広島市立安佐市民病院
広島市立広島市民病院
広島市立舟入病院
広島赤十字・原爆病院
広島通信病院
市立三次中央病院
正岡病院
総合病院 三原赤十字病院
総合病院 庄原赤十字病院
中国電力株式会社 中電病院
中国労災病院
独立行政法人国立病院機構広島西医療センター
独立行政法人国立病院機構福山医療センター
日本鋼管福山病院
尾道市立市民病院

府中市民病院
福山市民病院
福島生協病院 生協小児科ひろしま
里仁会 興生総合病院
里仁会白龍湖病院

35. 山口県

JCHO 徳山中央病院
みちがみ病院
医療法人 緑山会 周南高原病院
下関市立市民病院
岩国市医療センター医師会病院
鼓ヶ浦こども医療福祉センター
光市立総合病院
国立病院機構関門医療センター
済生会 下関総合病院
済生会 山口総合病院
山口県済生会豊浦病院
山口県立総合医療センター
山口大学医学部付属病院
山口労災病院
山陽小野田市立小野田市民病院
至誠会梅田病院
治徳会 湯野温泉病院
周東総合病院
周南記念病院
神徳会 三田尻病院
総合病院 山口赤十字病院
長門総合病院
萩市民病院
美祢市立病院

36. 徳島県

(医療) 原田病院
阿南共栄病院
阿波病院
厚生連 吉野川医療センター
町立半田病院
徳島県鳴門病院
徳島県立中央病院
徳島赤十字病院
徳島大学病院
独立行政法人国立病院機構東徳島医療センター
独立行政法人国立病院機構徳島病院

37. 香川県

かがわ総合リハビリテーション病院
さぬき市民病院
りつりん病院
屋島総合病院
香川井下病院
香川県済生会病院
香川大学医学部附属病院
高松市民病院
高松赤十字病院
高松平和病院
坂出市立病院
坂出聖マルチン病院
三豊総合病院
四国こどもとおとなの医療センター
大樹会総合病院 回生病院
滝宮総合病院
内海病院
麻田総合病院

38. 愛媛県

(財法) 積善会附属十全総合病院
愛媛県立今治病院
愛媛県立中央病院
愛媛大学病院
愛媛労災病院
伊予病院
公立学校共済組合四国中央病院
更生会 村上記念病院
済生会今治病院

市立宇和島病院
市立八幡浜総合病院
瀬戸内海病院
西条中央病院
西予市立野村病院
総合病院 松山市民病院
天山病院
美須賀病院

39. 高知県
(医療) 仁生会 三愛病院
J A高知病院
公世会野市中央病院
高知医療センター
高知県立あき総合病院
高知赤十字病院
高知大学医学部附属病院
国立病院機構高知病院
仁淀病院
土佐市立土佐市民病院
幡多けんみん病院

40. 福岡県
くらて病院
ゆうかり医療療育センター
芦屋中央病院
遠賀中間医師会 おんが病院
久留米大学医療センター小児科
久留米大学病院
九州大学病院
九州労災病院
健和会京町病院
戸畑総合病院
高邦会 高木病院
国立病院九州がんセンター
国立病院九州医療センター
産業医科大学病院
産業医大若松病院
慈恵曾根病院
自衛隊 福岡病院
社会保険田川病院
社保大牟田天領病院
宗像水光会総合病院
正信会 水戸病院
相生会 宮田病院
総合病院千鳥橋病院
太刀洗病院
大牟田市立病院
筑後市立病院
朝倉医師会病院
田川市立病院
独立行政法人国立病院機構小倉医療センター
独立行政法人国立病院機構福岡東医療センター
独立行政法人国立病院機構福岡病院
独立行政法人地域医療機能推進機構九州病院
飯塚市立病院
飯塚病院
姫野病院
浜の町病院
福岡記念病院
福岡県済生会 福岡総合病院
福岡県済生会八幡総合病院
福岡山王病院
福岡市立子ども病院・感染症センター感染症科
福岡新水巻病院
福岡赤十字病院
福岡大学筑紫病院
福岡大学病院
福岡鳥飼病院
福岡通信病院
米の山病院
北九州市立医療センター
北九州市立総合療育センター
北九州市立八幡病院
北九州市立門司病院

北九州総合病院
牟田病院

41. 佐賀県
JCHO 佐賀中部病院
医療法人社団 敬愛会 佐賀記念病院
古賀小児科内科病院
佐賀県立病院 好生館
佐賀整肢学園子ども発達医療センター
佐賀大学医学部附属病院
至慈会 高島病院
小城市民病院
静便堂 白石共立病院
唐津赤十字病院
独立行政法人国立病院機構嬉野医療センター
独立行政法人国立病院機構佐賀病院

42. 長崎県
(医療) 白十字会佐世保中央病院
医療法人理工会 柿添病院
諫早療育センター
健保諫早総合病院
県立子ども医療福祉センター
国立病院長崎医療センター
佐世保共済病院
佐世保市総合医療センター
済生会長崎病院
長崎記念病院
長崎県老岐病院
長崎県五島中央病院
長崎県島原病院
長崎県病院企業団 長崎県対馬病院
長崎市立市民病院
長崎大学病院
田上病院
独立行政法人国立病院機構長崎病院
平成会 女の都病院

43. 熊本県
くまもと芦北療育医療センター
くわみず病院
阿蘇医療センター
菊池中央病院
球磨郡公立多良木病院
玉名地域保健医療センター
熊本光洋台病院
熊本市民病院(小児科)
熊本赤十字病院
熊本大学医学部附属病院
熊本地域医療センター
熊本中央病院
熊本労災病院
公立玉名中央病院
荒尾市民病院
坂梨会 阿蘇温泉病院
桜十字病院
慈恵病院
社会医療法人黎明会宇城総合病院
小国公立病院
上天草総合病院
水俣市立総合医療センター
聖和会有明成仁病院
谷田会谷田病院
天草地域医療センター
和水町立病院

44. 大分県
杵築市立山香病院
国東市民病院
国立病院機構別府医療センター
大分子ども病院
大分健生病院
大分県厚生連鶴見病院
大分県済生会日田病院
大分県立病院

大分市医師会立アルメイダ病院
竹田医師会病院
中津市立中津市民病院
津久見市医師会立津久見中央病院
独立行政法人国立病院機構西別府病院
別府発達医療センター

45. 宮崎県
宮崎県済生会日向病院
宮崎県立宮崎病院 小児科
宮崎生協病院
宮崎大学附属病院
県立日南病院
宏仁会海老原総合病院
高千穂町国保病院
小林市立病院
独立行政法人国立病院機構 都城医療センター

46. 鹿児島県
やまびこ医療福祉センター
医療法人 義順顕彰会種子島医療センター
医療法人徳洲会徳之島徳洲会病院
奄美中央病院
県民健康プラザ鹿屋医療センター
県立大島病院
県立北薩病院
国分生協病院
国立病院鹿児島医療センター
今村病院
済生会 川内病院
財団法人今給黎総合病院
鹿児島子ども病院
鹿児島市立病院
鹿児島大学病院
出水総合医療センター
総合病院鹿児島生協病院
中村温泉病院
童仁会 池田病院
徳洲会 鹿児島徳洲会病院
独立行政法人国立病院機構指宿医療センター

47. 沖縄県
うえむら病院
かりゆし会ハートライフ病院
もとぶ野毛病院
医療法人球陽会海邦病院
医療法人信和会沖縄第一病院
沖縄協同病院
沖縄県立中部病院
沖縄徳洲会 南部徳洲会病院
沖縄南部療育医療センター
沖縄療育園
敬愛会 中頭病院
県立北部病院
総合病院沖縄赤十字病院
中部徳洲会病院
潮平病院
那覇市立病院
八重瀬会 同仁病院
友愛会 豊見城中央病院
琉球大学病院

川崎病調査票(第24回全国調査)

お願い

- 平成27年1月1日～平成28年12月31日の2年間に発症し貴施設を受診した患者全員について記入して下さい。
- 症例がない場合も下記のQ1「施設に関する質問」をご記入の上、ご返送下さい。
- 他施設より紹介された患者、他施設へ転院した患者も含めます。

主治医(代表者)ご芳名 メールアドレス	川崎病全国疫学調査事務局作成 平成28年7月
------------------------	---------------------------

記入しない 転院の場合 は○印	患者氏名 イニシャル 姓・名の順 に記入する	発症時患者住所 番地省略する	性	出生年月日 できるだけ和暦で ご記入下さい 西暦も必要 あり	初診年月日 (西暦)	初診時 病日 (歳)	初診時 病日 (歳)	診断の 確実度	治療(前医での投与分についても含む)		血小板数		今回の 発症	同胞例	両親の 川崎病 既往歴	心臓書	
									免疫グロブリン (IG)投与	初回IG 投与方法	初診時 最高値 最低値	観察日				初診時 最高値 最低値	観察日
	姓 名	都道府県 市 郡 区町村	1 男 2 女	平成 27年 平成 28年	1 平成 27年 2 平成 28年	初診時 病日	1 確実 A 2 確実 B 3 不典型 主要症状の数 (/)	1 IG投与なし 2 IG投与あり 3 IG投与あり 4 ステロイド併用あり 1, 2, 3, 4, 5, 6以外	1 追加IG 2 ステロイド 3 Infliximab 4 免疫抑制剤 5 血漿交換	初診時 最高値 最低値	観察日	1 初発 2 再発	なし	1 なし 2 あり 3 不明	1 なし 2 巨大瘤 3 瘤 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変		
	姓 名	都道府県 市 郡 区町村	1 男 2 女	平成 27年 平成 28年	1 平成 27年 2 平成 28年	初診時 病日	1 確実 A 2 確実 B 3 不典型 主要症状の数 (/)	1 IG投与なし 2 IG投与あり 3 IG投与あり 4 ステロイド併用あり 1, 2, 3, 4, 5, 6以外	1 追加IG 2 ステロイド 3 Infliximab 4 免疫抑制剤 5 血漿交換	初診時 最高値 最低値	観察日	1 初発 2 再発	なし	1 なし 2 あり 3 不明	1 なし 2 巨大瘤 3 瘤 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変		
	姓 名	都道府県 市 郡 区町村	1 男 2 女	平成 27年 平成 28年	1 平成 27年 2 平成 28年	初診時 病日	1 確実 A 2 確実 B 3 不典型 主要症状の数 (/)	1 IG投与なし 2 IG投与あり 3 IG投与あり 4 ステロイド併用あり 1, 2, 3, 4, 5, 6以外	1 追加IG 2 ステロイド 3 Infliximab 4 免疫抑制剤 5 血漿交換	初診時 最高値 最低値	観察日	1 初発 2 再発	なし	1 なし 2 あり 3 不明	1 なし 2 巨大瘤 3 瘤 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変		
	姓 名	都道府県 市 郡 区町村	1 男 2 女	平成 27年 平成 28年	1 平成 27年 2 平成 28年	初診時 病日	1 確実 A 2 確実 B 3 不典型 主要症状の数 (/)	1 IG投与なし 2 IG投与あり 3 IG投与あり 4 ステロイド併用あり 1, 2, 3, 4, 5, 6以外	1 追加IG 2 ステロイド 3 Infliximab 4 免疫抑制剤 5 血漿交換	初診時 最高値 最低値	観察日	1 初発 2 再発	なし	1 なし 2 あり 3 不明	1 なし 2 巨大瘤 3 瘤 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変		
	姓 名	都道府県 市 郡 区町村	1 男 2 女	平成 27年 平成 28年	1 平成 27年 2 平成 28年	初診時 病日	1 確実 A 2 確実 B 3 不典型 主要症状の数 (/)	1 IG投与なし 2 IG投与あり 3 IG投与あり 4 ステロイド併用あり 1, 2, 3, 4, 5, 6以外	1 追加IG 2 ステロイド 3 Infliximab 4 免疫抑制剤 5 血漿交換	初診時 最高値 最低値	観察日	1 初発 2 再発	なし	1 なし 2 あり 3 不明	1 なし 2 巨大瘤 3 瘤 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変		
	姓 名	都道府県 市 郡 区町村	1 男 2 女	平成 27年 平成 28年	1 平成 27年 2 平成 28年	初診時 病日	1 確実 A 2 確実 B 3 不典型 主要症状の数 (/)	1 IG投与なし 2 IG投与あり 3 IG投与あり 4 ステロイド併用あり 1, 2, 3, 4, 5, 6以外	1 追加IG 2 ステロイド 3 Infliximab 4 免疫抑制剤 5 血漿交換	初診時 最高値 最低値	観察日	1 初発 2 再発	なし	1 なし 2 あり 3 不明	1 なし 2 巨大瘤 3 瘤 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変		

※ 当該患者を貴院から他施設へ転院させた場合は○をつけて下さい。

Q1. 施設に関する質問

- 貴院のベッド数はいくつですか。
病棟全体 床 小児科一般病棟 床 小児科一般病棟 床
- 貴院の小児科医は何人ですか。
常勤小児科医 人 非常勤小児科医 人
- そのうち循環器を専門とする小児科医 人 非常勤小児科医 人
貴院では急性期の心臓書も心後遺症も川崎病既往歴をいつまで観察するかの原則を決めていますか。
1) 決めていない(主治医の判断にゆだねている) 2) 決めていない(1年まで) 3) 罹患後5年まで 4) 小児科入学まで 5) 小児科入学まで 6) 罹患後5年まで 7) 小児科入学まで 8) 小児科入学まで 9) 小児科入学まで 10) 小児科入学まで
- 川崎病診療費の支払い方法はどちらですか。
1. 出来高払い(至医療行為について) 2. 定額払い(導入(DPC)適用)

1. はい 2. いいえ

〒329-0408 返送先
栃木県下野市美師寺3311-1
自治医科大学公衆衛生学教室
川崎病全国疫学調査事務局 宛
電話: 0285-44-6192 0285-58-7338
FAX: 0285-44-7217
E-mail: epikid@ichi.ac.jp

一住所、電話番号の誤りは本書にてご訂正下さい。

★死亡例は下欄Q2にご記入下さい

心臓書
巨大瘤は直径8mm以上の運動脈瘤をいう
下記心臓書について記入に際してはお願いを参照のこと

初診時、最高値、最低値
「最高値、最低値は発症から発症の日のまでのものとする」

初診時	最高値	最低値	観察日	初診時	最高値	最低値	観察日	初診時	最高値	最低値	観察日	初診時	最高値	最低値	観察日	初診時	最高値	最低値	観察日
初診時	最高値	最低値	観察日	初診時	最高値	最低値	観察日	初診時	最高値	最低値	観察日	初診時	最高値	最低値	観察日	初診時	最高値	最低値	観察日

川崎病初診年月日 死亡年月日 剖検 死亡原因

1. 今回の報告例 2. 前回の報告例